

NO.18

さいたまけんかわぐちし
埼玉県川口市

はっこう にせんにじゅうさんねんにつ
発行 2023年2月

と も と も

TOMO×TOMO

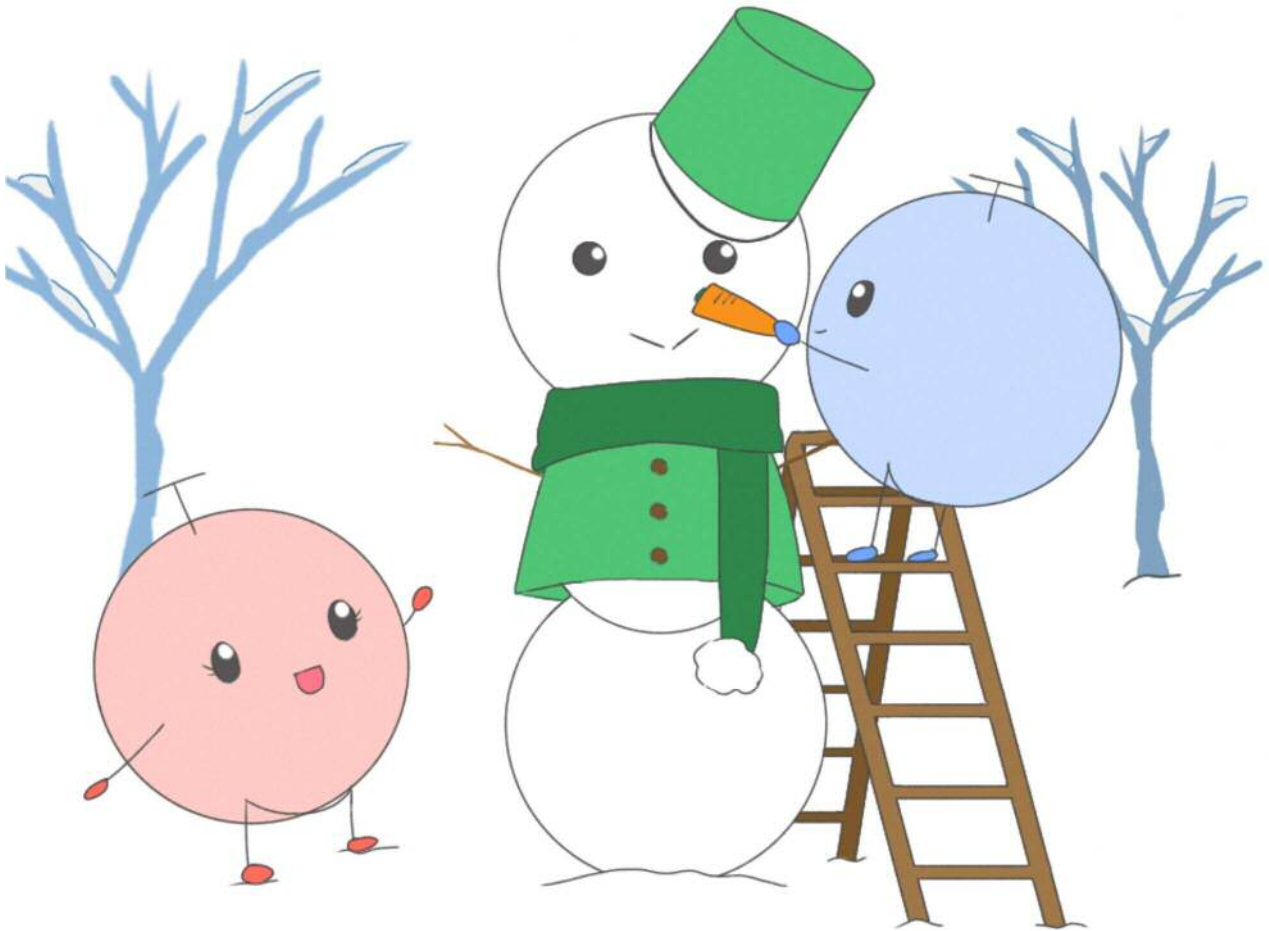
がいこくじん にほんじん じょうほうし
外国人と日本人のための情報誌

Newsletter for international friendship and foreign residents

为外国人与日本人共同创办的信息杂志

Tạp chí thông tin dành cho người nước ngoài và người Nhật

외국인과 일본인을 위한 정보지



とびっくす
トピックス

りーぐい めざ あげんとうーらかわぐち おうえん
・リーグ入りを目指す「アヴェントゥーラ川口」を応援しよう！

あとりあ みぢか げいじゆつ ふ
・アトリアで身近な芸術に触れてみよう！

にほん しょうがっこう
・日本の小学校について

だいじゅうまんかいかわぐちしがいこくじん にほんごすびーちこんですと
・第14回川口市外国人による日本語スピーチコンテスト

たぶんかきょうせいじょうほうし と も と も よ
いつも多文化共生情報誌「TOMO×TOMO」を読んいただき、ありがとう
ございます。こんご どくしゃ みんな じょうほう ていきょう かんが
今後、読者の皆さまによりよい情報を提供したいと考えてい
ます。いか にじげんコード よ と あんけーと きょうりよく
以下の二次元コードを読み取り、アンケートにご協力ください。よろしく
ねが
お願いします。

あんけーと ななもん やくいつぷん かいとう
(アンケートは7問です。約1分で回答できます。)



たぶんかきょうせいじょうほうし と も と も どくしゃあんけーと
多文化共生情報誌「TOMO×TOMO」読者アンケート

にじげんコード
二次元コード

● にほんご 日本語 p. 1-6

りーぐい めざ あうえんとうーらかわぐち おうえん
 Jリーグ入りを目指す「アヴェントゥーラ川口」を応援しよう！

あとりあ みちか げいじゆつ ふ
 アトリアで身近な芸術に触れてみよう！

にほん しょうがっこう
 日本の小学校について

だいじゅうよんかい かわぐちしがいくじん にほんごすびーちこんてすと
 第14回 川口市外国人による日本語スピーチコンテスト

かわぐちし ぼらんていあにほんごきょうしつしょうかい なんばーじゆうろく
 川口市のボランティア日本語教室紹介 (No.16)

● えいご 英語 (English) p. 7-11

 Open the Door to the J. League; Let's Root for "Aventura Kawaguchi"!
 Feel the Local Art at Atlia!
 Japanese Elementary Schools
 The 14th Japanese Speech Contest by Foreign Residents in Kawaguchi City
 A Volunteered Japanese Language Class in Kawaguchi City(No.16)

● ちゅうごくご 中国語 (中文) p. 12-15

 让我们为以进入J1联赛为目标的“川口冒险队”加油！
 去ATLIA体验一下身边的艺术吧！
 关于日本的小学
 第14次川口市外国人日语演讲比赛
 川口市志愿者日语教室的介绍 (No. 16)

● べとなむご ベトナム語 (Tiếng Việt) p. 16-19

 Hãy cổ vũ cho đội tuyển Aventura Kawaguchi dành vé dự J. League!
 Hãy tiếp cận với nghệ thuật theo cách thật gần gũi tại Atlia!
 Trường tiểu học tại Nhật
 Cuộc thi Hùng biện tiếng Nhật dành cho người nước ngoài tại thành phố Kawaguchi lần thứ 14
 Giới thiệu lớp học tiếng Nhật tình nguyện ở thành phố Kawaguchi (No. 16)

● かんこくご 韓国語 (한국어) p. 20-24

 J리그 입성을 목표로 하는 ‘아벤투라 가와구치’를 응원합시다!
 아토리아에서 친숙한 예술에 접해보자!
 일본 초등학교에 대해서
 제14회 가와구치시 외국인 일본어 스피치 콘테스트
 가와구치시 불런티어 일본어 교실 소개 (No. 16)

◇ こらむ にほんご つか コラム やさしい日本語を使ってみましょう p. 6

◇ かわぐちしぼらんていあにほんごきょうしついちらん 川口市ボランティア日本語教室一覧 p. 25



リーグ めざ あヴエンとうーらかわぐち おうえん
Jリーグ入りを目指す「アヴェントゥーラ川口」を応援しよう！

かわぐち にほんさっかー とつぷりーぐ りーぐ めざ がんば さっかーちーむ あヴエンとうーら
川口に、日本サッカーのトップリーグであるJリーグを目指して頑張っているサッカーチームがあります。「アヴェントゥーラ川口」です。

ちーむ へいせいじゅう にせんはち ねん そうせつ げんざいとつぷちーむ
チームは平成20(2008)年に創設され、現在トップチームには22名の選手が在籍しており、アマチュアからプロリーグ入りを目指しています。“アヴェントゥーラ”はポルトガル語で「冒険」の意味です。守備を重視しつつも自ら突き進みボールを奪いにくくチームとして、「冒険しながら上(Jリーグ)を目指そう」と願いを込めて名付けられました。そのチームを運営するNPO法人フェアリースポーツクラブの理事長、長岡修さんに話を聞きました。



おも ほうじん た あ ちーむ せつりつ
—どのような思いでNPO法人を立ち上げ、またチームを設立されたのですか？

わたしじん おさな ごろ さっかー けんりつかわぐちこうこう しんがく さっかーぶ なにごと まえむ ねぼ つよ
私自身、幼い頃からサッカーをやっていて、県立川口高校に進学してからもサッカー部でした。何事も前向きに粘り強くやることをサッカーから学び、仲間や指導者に助けられてきたことへの感謝の気持ちがありましたので、20代で怪我により選手生活を終えた後も、自分にできることでサッカーに貢献したいと思いました。そして、やるならば熱い思いの人がたくさんいる第二の故郷・川口で、いろいろな人と一緒に活動していこう、という思いで法人を立ち上げ、チームを設立しました。

ちーむ だんたい た あ とうじ おし
—チームや団体の立ち上げ当時のことを教えてください。

ちーむ たく びじょん しめ じもとぎぎょう しえん ねが まわ いま あほいと
まずチームをしっかりと作ることで、そしてビジョンをきちんと示して地元企業に支援をお願いして回りました。今でも、アポイントなしで企業を訪問することがあります。高校時代のサッカー部の先輩から、川口をもっと盛り上げたいという熱い思いを持った方々を紹介してもらったことも助けになりました。そういう出会いやつながりがあったおかげで、今の私たちがいます。

せんしゅ みな ふだん せいかつ おし
—選手の皆さんの普段の生活について教えてください。

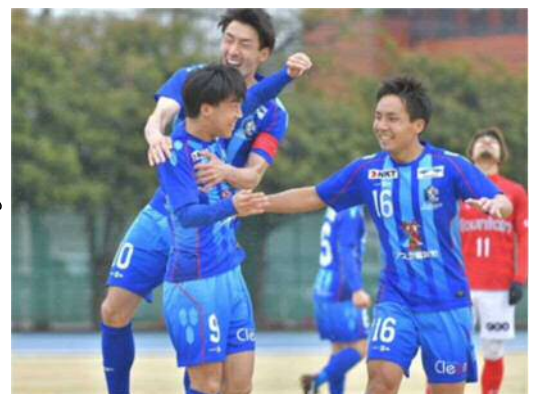
どようび にちようび しい いべんと へいじつ しごと れんしゅう かようび きんようび よる さいきん せんしゅ しょぞくぎぎょう
土曜日と日曜日は試合やイベント、平日は仕事をして、練習は火曜日と金曜日の夜、最近になって、選手の所属企業の協力のおかげで、木曜日の午前にも練習ができるようになりました。試合が日中に行われることが多いため、練習もなるべく同じ時間帯にやれることは大変重要です。

ちーむ ちいき とも りーぐ かんが かつ きょうかん
—「チームが地域と共にあること」というJリーグの考え方に共感しているそうですね。

さっかー こ いくせい きぎょう きょうどう いべんと つ かさ かわぐちしめん みな ちーむ みちか かん
サッカーによる子どもたちの育成や、企業との協働によるイベントなどを積み重ねて川口市民の皆さんにチームを身近に感じてもらい、“地域が誇れる存在”にならなければと考えています。今後は例えば、選手がゴールを決めるごとに街路樹を1本植樹する、というような、サッカーと環境問題をつなぐような取り組みもやってみたいですね。

ちいきかつどう つう ひとり おお かつ あヴエンとうーらかわぐち し
地域活動を通じて一人でも多くの方にアヴェントゥーラ川口を知ってもらい、その後押しを受けてサッカーチームとして強くなり、必ず、Jリーグに行きたい。ぜひ応援をお願いします。

さいきん しい ななひやく はっぴやくにん しめん おうえん か
最近では、試合に700～800人ももの市民が応援に駆けつけてくれることもあるそうです。川口からJリーグのチームが誕生する日を楽しみに、アヴェントゥーラ川口をみんなで応援していきましょう！



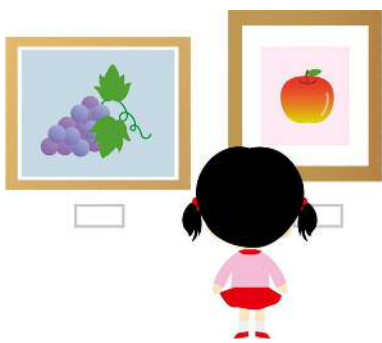
あヴエンとうーらかわぐちこうしきほーむ ペーじ
アヴェントゥーラ川口公式ホームページ：<https://aventura-kawaguchi.co.jp>

あとりあ みちか げいじゆつ ふ
アトリアで身近な芸術に触れてみよう！

けいひんとうほくせんかわぐちえきびがしぐち と ほはつぶん ありおかわぐち となり いっかいだ
JR京浜東北線川口駅東口から徒歩8分。アリオ川口の隣に、1階建て
の白くて四角い建物、川口市立アートギャラリー「アトリア」があります。
へいせいじゅうはち にせんろく ねんしがつ おーぶん かわぐち かんれん さくひん てんじ
平成18(2006)年4月にオープンしました。川口に関連した作品を展示
する企画展や、地域の学校と連携したポスターコンクールなどの展覧会を
行っています。他にも展示室・スタジオを貸出し、アーティストの個展など
が行われます。またアトリアでは、長期間の展示だけでなく、1日だけの
イベントも行っています。開催されるイベントは、ワークショップ、たのしい
実技講座、アートさんぼ、やさしい鑑賞講座などです。



ワークショップは、講師と一緒に作品づくりや身体表現、鑑賞を体験するプログラムです。小学校低学年などの小さな子ども
さんか おお ようい しんぶんし がわてーぶく あ にめーとる おお ふね つく きかく
参加できるものが多く用意されています。これまでに、新聞紙とガムテープを組み合わせて2mほどの大きな船を作る企画
や、せっけんに彫刻してみる企画など、誰でも簡単に楽しめる内容のものが開催されました。



たのしい実技講座は職人や作家が講師となり、専門的な技法を学びながら制作をし
ます。初心者から経験者、中高生から大人まで、幅広い人が楽しめる内容であることが
魅力的です。たのしい実技講座ではより本格的なものづくり体験ができます。過去には
川口の伝統産業である和竿づくりや、真ちゅうという金属からバターナイフを作る企画など
が行われました。

アートさんぼは、アトリアを飛び出して屋外で開催されるプログラムで、街中を歩いて建物
や彫刻を観察します。明治から昭和初期に建てられたモダン建築を巡る「川口モダン建築
探訪」など、ちょっと変わった視点から街を見つめることで、いつもと違った風景に見えるのが興味深いです。

やさしい鑑賞講座は、研究者や専門家から、様々なテーマについて講義形式で話を聞く
ものです。私も実際に、令和4(2022)年9月10日に開催された「マンホール鑑賞講座」
に参加してきました。マンホールの歴史は古く、日本で初めて設置されたのは明治中期とさ
れていました。その後下水道の拡大と一緒にマンホールも全国に広がっていきました。最近で
はカラフルに色付けされた「デザインふた」も作られるようになり、観光地などに設置されてい
ます。普段何気なく見ているマンホールのふたも、歴史やデザインの違いについて教わるこ
とで、味わい深いものに見えてきて面白かったです。



令和5年度からは、市の直営から指定管理者制度に移行され、さらに市民に親しまれる施設を目指して運営されます。
これから開催されるイベントは、広報かわぐちなどで確認できます。過ごしやすくなってきたこの時期に、皆さんも身近な芸術
に触れに行ってみませんか。

かわぐちしりつあーとぎやらりー あとりあ
川口市立アートギャラリー・アトリア
住所:埼玉県川口市並木元町1-7-6
電話:048-253-0222
ホームページ公式: <https://www.atlia.jp>
※令和5(2023)年3月までの運用です



日本の小学校について

にほん しんがつき はじ しがつ にゆうがくしき おこな くに がっこう せいかつ る ー る こと
 日本では、新学期が始まる4月に、入学式を行います。国によって学校での生活やルールが異なるので、「もうすぐ子どもが
 にほん しょうがっこう はい しょうがっこう せいかつ がいこくじん かた おお かがた ふあん すこ
 日本の小学校に入るけれど、小学校の生活が想像できない」という外国人の方も多いかもしれません。そんな方々の不安が少
 かる たの がっこうせいかつ おく にほん しょうがっこう とくちよう いちにち なが しょうがい
 しても軽くなり、楽しい学校生活を送れるように、日本の小学校の特徴や1日の流れについて紹介します。

にほん しょうがっこう とくちよう
<日本の小学校の特徴>

にほん しょうがっこう こくご しゃかい さんすう りか きょうか まな しゃかいかけんがく
 日本の小学校では、国語、社会、算数、理科などの教科を学びます。社会科見学や
 しゅうがくりょこう がっこう そと れきし ぶんか まな さまごま たいけん きかい
 修学旅行など、学校の外で歴史や文化を学んだり、様々な体験をする機会もあります。
 きゅうしよく じゅんぴ そうじ こ さまごま やくわり あた とお しゅうだんせいかつ
 また、給食の準備や掃除など、子どもに様々な役割を与えることを通して、集団生活の
 る ー る せきにんかん み
 ルールや責任感などを身につけます。



がいこく がっこう せんせい しごと きょうか しどう ちゅうしん にほん しょうがっこう きょうか
 外国の学校では、先生の仕事は教科の指導が中心ですが、日本の小学校では、教科
 しどう せいかつ しどう せんせい おこな とくちよう
 の指導だけではなく、生活などの指導を先生が行うことも特徴です。

しょうがっこう いちにち なが ちいき がっこう かた じかん こと ばあい
<小学校の1日の流れ> ※地域や学校によってやり方や時間などは異なる場合があります



あさ しゅうだんどうこう ちか す こ ぐる ー ぶ つく いっしょ どうこう
 朝は、集団登校で近くに住んでいる子どもがグループを作って一緒に登校す
 るがっこう おお とうこうご くらす あさ かい ひら しゅっせきかくにん
 学校が多いです。登校後、クラスごとに朝の会を開き、出席確認をします。
 ごせん じゅぎょう よじかん め いちたんいじかん まんじゅうごふん
 午前の授業は4時間目まであり、1単位時間は45分です。

きゅうしよく きょうしつ いっしょ た どうばん こ きゅうしよくぎ き はん
 給食は教室でみんな一緒に食べます。当番の子どもが給食着を着て、ご飯
 さら い くば た お みんな かたづ きんようび こ
 やおかずをお皿に入れて配り、食べ終わったら皆で片付けます。金曜日に子
 きゅうしよくぎ いえ も かえ せんたく つぎ げつようび がっこう も い
 もが給食着を家に持ち帰り、洗濯をして、次の月曜日にまた学校に持って行きま
 きゅうしよくひ いっかげつやくよん せんえん きゅうしよく あと きょうしつ ろうか といれ こ
 す。給食費は1カ月約4,000円です。給食の後、教室や廊下、トイレなどを子
 そうじ
 どもたちが掃除します。

ご ご じゅぎょうすう がくねん か いちにち じゅぎょう お かえ かい はじ せんせい よくじつ よてい しゅくだい
 午後の授業数は、学年によって変わります。1日の授業が終わると、帰りの会が始まります。先生から翌日の予定や宿題など
 れんらく き ないよう こ れんらくちよう か れんらくちよう がっこう ほごしゃ たいせつ ほごしゃ せんせい
 の連絡を聞き、その内容は子どもが「連絡帳」に書きます。連絡帳は学校と保護者をつなぐ大切なものです。保護者から先生
 つた ばあい つか れんらくちよういがい がっこう たよ くば にほんご たよ よ むすか
 に伝えたいことがある場合にも使います。連絡帳以外、学校がお便りを配ることがあります。日本語のお便りなど読むことが難
 ばあい がっこう つた
 しい場合は、あらかじめ学校へ伝えておきましょう。

かえ かい お とく ていがくねん がくねん ぐる ー ぶ つく いえ かえ しゅうだんげこう じっし がっこう ほごしゃ
 帰りの会が終わると、特に低学年は学年ごとにグループを作って家に帰る、集団下校を実施している学校もあります。保護者
 はたら りゆう ほうかごじどうくらぶ かよ こ ほごしゃ むか す
 が働いているなどの理由で放課後児童クラブに通っている子どもは、そこで保護者が迎えにくるまで過ごします。

みな すこ にほん しょうがっこう いめ ー じ にほん がっこうこうかい おこな しょうがっこう おお がっこうこうかい
 皆さん少しでも日本の小学校をイメージできましたか。日本では、「学校公開」を行っている小学校が多いです。学校公開
 だれ がっこう じゅぎょう けんがく しょうがっこう し
 では、誰でも学校の授業を見学することができるので、小学校がどんなところか知る
 ちゃんす かわぐちし がっこうこうかい ひ し ほーむペーじ かくにん
 チャンスです。川口市の学校公開の日は、市のホームページで確認することができます。
 にほん しょうがっこう し かた した さんこう けんさく み
 日本の小学校についてもっと知りたい方は、下のURLを参考に検索して見てください。



がいこくじんじどうせいと しゅうがくがいでぶっくもんぶかがくしゅう
 ●外国人児童生徒のための就学ガイドブック(文部科学省)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1320860.htm



りーふれっと にほん しょうがっこう にゆうがく まえ あいちきょういくだいがく
 ●リーフレット「日本の小学校に入学する前に」(愛知教育大学)
<https://resource-room.nihongo.aichi-edu.ac.jp/about/leaflet>



第14回 川口市外国人による日本語スピーチコンテスト

令和4(2022)年10月16日に川口駅前市民ホール・フレンジアで「第14回 川口市外国人による日本語スピーチコンテスト」が行われました。これは、川口市に在住、在勤、在学している日本語を母語とした外国人が決まったテーマでスピーチを行うもので、日本人と外国人がお互いを理解し、共生することを目指して毎年行われています。

今回のテーマは、「私の好きな日本の言葉」。「初心忘るべからず」、「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」、「失敗は成功のもと」など、出場者は各自の経験を交えながら、その言葉を好きになった理由やその言葉から学んだことをスピーチしました。



厳正な審査の結果は、次の通りです。

賞	名前	出身国	スピーチのタイトル
金賞	張華	中国	初心から初心まで
銀賞	法伊輝	中国	一万円札の男の言葉
銅賞	黄慧瑤	中国	「思いやり」の心
敢闘賞 (発表順)	池漫	中国	今を生きる
	郭聯軍	中国	がんばれ
	TRAN BICH THAO SUONG	ベトナム	私を変えたにほんのことわざ
	王亜香	中国	私の好きな日本の言葉「十人十色」
	TA THI THAO	ベトナム	日本語勉強の思い出
	龍国偉	中国	『もったいない』から始めよう、『敬天愛人』いつまでも

金賞を受賞した張華さんは、スピーチ「初心から初心まで」で世阿弥の有名な言葉「初心忘るべからず」を紹介しました。「初心」とは何かを、張さんの経験と重ね合わせて考えた結果、「人生は死ぬまで挑戦。挑戦する際には自分の未熟さを決して忘れてはいけないことに気づいた」と力強く発表しました。コンテスト終了後、張さんに話を聞きました。



— 金賞おめでとうございます。今のお気持ちはいかがですか？
張 嬉しいですが、もっと頑張りたいです。

— スピーチコンテストに向けてどのように準備しましたか？
張 毎週日曜日に幸にほんご広場の北原先生と一緒に練習しました。先生に文法や発音の細かな間違いを正してもらい、それを踏まえて家でも練習しました。本番で緊張しないように、幸にほんご広場のみんなの前でも発表しました。

— 「初心忘るべからず」という言葉にはどのようにして出会いましたか？
張 5月に京都を旅行した際に能の舞台を観ました。そこから能に関心を持つようになり、世阿弥について学ぶ過程で「初心忘るべからず」という言葉に出会いました。



す び ー ち じんせい ちようせん ちからづよ はなし いま ちようせん
 —— スピーチで「人生は挑戦」と力強く話していましたが、今、挑戦している
 どりよく
 こと、努力していることはありますか？
 ちよう にほんじん こうりゆう にほんしゃがい りかい つと じこく
 張 日本人と交流し、日本社会をもっと理解できるように努めています。自国
 の人と交流することも楽しいですが、それだけでは日本社会から離れてしま
 います。勇気を出して積極的に日本人と交流し、日本社会を理解することは
 日本に住み続けるために必要なことだと考えています。



さいご なに ひとこと
 —— 最後に何か一言ありますか？
 ちよう がいこく き かた つたえ ぼらんていあ にほんごきょうしつ けんがく じぶん
 張 外国から来たばかりの方に 伝えたいことがあります。ぜひボランティア日本語教室を見学してほしいです。自分の
 すけじゆーる べんきょうほうほう あ ぼしよ み けいぞく べんきょう たいせつ おも にほんごきょうしつ にほんじん
 スケジュールや勉強方法に合った場所を見つけ、そこで継続して勉強することが大切だと思います。日本語教室では日本人と
 はな にほんじん はな あいて かんが かた かちかん りかい しや ひろ ゆうき だ
 話すことができます。日本人と話すことで相手の考え方や価値観を理解し、視野を広げることができます。まずは勇気を出し
 て、日本人と交流してみてください！

にほんじん こうりゆう つう にほん ぶんか かちかん せつきよくてき まな つづ ちよう かわぐち なが す にほんじん
 日本人との交流を通じて、日本の文化や価値観を積極的に学び続ける張さん。これからも川口に長く住んで、日本人と
 がいこくじん はしわた
 外国人の橋渡しをしてほしいですね！

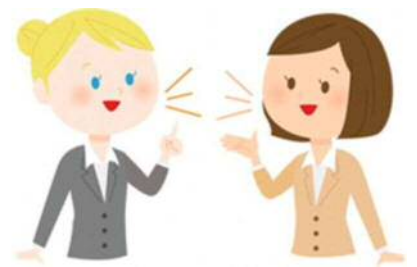


かわぐちし ぼらんていあ にほんごきょうしつしやukai
 川口市のボランティア日本語教室紹介
 しば にほんごきょうしつ
 ～芝みなみ日本語教室～

かわぐちし じんこうやくろくじゆまんにん やくさんまんきゆうせんにん がいこくじん がいこくじん たい にほんごがくしゆう ば さくねんしちがつ あたら
 川口市の人口約60万人のうち、約3万9千人は外国人です。外国人に対する日本語学習の場として、昨年7月に新しい
 ぼらんていあ にほんごきょうしつ しば にほんごきょうしつ すたーと こんかい だいひょうしや なかじま いんたびゆーまじ
 ボランティア日本語教室である「芝みなみ日本語教室」がスタートしました。今回は代表者である中島さんのインタビューも交え
 ようす つた
 て、その様子をお伝えします。

がいこくじん まな ば
 <外国人に学びの場を>

いま かわぐちし がいこくじん おお まち し がいこくじんうけい かんきょう ととの
 今や川口市はとても外国人の多い街になりました。市の外国人受入れの環境は整っ
 てきましたが、日本語学習の場が不足しています。市内にある日本語教室の場所は
 かくちいき てんざい ちい こ う い むずか きょうしつ
 各地域に点在していて、また小さい子どもは受け入れが難しい教室もあります。



よこそねちく もつと がいこくじん おお つぎ しばちく ふた ちく ぜんたい ほんぶん し にばんめ
 横曽根地区は最も外国人が多く、その次が芝地区で、この二つの地区で全体の半分ほどを占めています。ところが、2番目
 がいこくじん おお しばちく にほんごきょうしつ すく じようきょう しばちく くるま よこそねちく きょうしつ かや
 に外国人の多い芝地区には日本語教室が少ない状況です。なかには、芝地区から車で横曽根地区の教室まで通っている
 がくしゆうしや じようきょう すこ かいけつ よこそねこうみんかん にほんごきょうしつ だいひょう かつどう なかじま
 学習者もいたそうです。その状況を少しずつ解決しようと、横曽根公民館で日本語教室の代表として活動していた中島さん
 あら しばみなみこうみんかん にほんごきょうしつ た あ
 が、新たに芝南公民館で日本語教室を立ち上げたのです。



しえん きょうせい
 <支援ではなく共生を>

まな き がくしゆうしや ちゆうごくじん きょうだい かぞく き ひと おお
 学びに来ている学習者は中国人がほとんどで、兄弟や家族で来ている人が多
 ちい こ どうはん がいこく き ひと なか じぶん
 く、小さい子どもも同伴できるそうです。外国から来ている人の中には自分の
 ぼこくご よ ひと にほん さいていげん にほんご はな
 母国語が読めない人がいますが、それでも日本では、最低限の日本語を話すこと
 なん せいかつ おとな にほんご まな ば ていきょう
 ができれば何とか生活ができます。そのような大人にも日本語を学ぶ場を提供し、

多少の時間はかかっても、外国人が自分自身で活動できる範囲を広げてほしいという、中島さんの願いがあります。ただそれは「支援する、やってあげる」ということではありません。学習者もボランティアも共に学び、失敗しながらお互いが成長していく関係を大切にしているそうです。

<日本語の学び方:学習者のニーズと必要性にあわせた取り組みを>

芝みなみ日本語教室では、学習者の希望や日本語レベルに合わせて、きめ細かく日本語を教えています。例えば学習者一人に対してボランティアが一人、または複数といった形です。日本語を初めて学ぶ人から、日本語能力試験を受験したい人など様々な希望に応じています。また、学習者が多数に対して、ボランティアも多数という一斉学習も取り入れています。これは、例えば防災情報を共有したり、各国の文化を紹介したりします。また、年末年始には日本の遊びやゲームを取り入れたイベントを行うこともあります。



<取材を通して感じたこと>

中島さん以外のボランティアの方にも話を聞きましたが、皆さんとても外国人の日本語学習に意欲的で一生懸命でした。公民館の建物も新しくとてもきれいで、明るい教室で皆さんとても和気あいあいとした雰囲気でした。私自身にとっても、とても学ぶことの多い有意義な時間でした。



教室の名前: 芝みなみ日本語教室

(川口市ボランティア日本語教室一覧 No.16)

活動日時: 毎週土曜日午前11時~午後1時

場所: 芝南公民館 (JR京浜東北線蕨駅東口から徒歩14分)

連絡先: 090-6536-4934 (中島さん)

やさしい日本語を使ってみましょう

やさしい日本語とは、外国人にもわかりやすく配慮した簡単な日本語のことです。

1. 住民税

1月1日に住んでいる県や市、区などに払う税金です。払う金額は、前の年の1月1日から12月31日までの給料などによって決まります。

2. 特別徴収

会社などが働いている人の代わりに住民税を払うこと。その人の給料から税金を引いて払います。

3. 普通徴収

会社などが特別徴収をしていない人は、市などから住民税を知らせます。自分で払います。

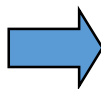
一番大切なのは、相手を思いやり、分かりやすく伝えようとする「やさしい気持ち」です。



●詳しい内容を知りたい場合はQRコードで確認してください。

川口市の外国人生活ガイド(ポータルサイト)が表示されます。

※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。



Open the Door to the J. League; Let's Root for "Aventura Kawaguchi"!

There is a football club in Kawaguchi aspiring to get into the J. League, premier professional football league of Japan. The club's name is "Aventura Kawaguchi".

This club, established in 2008, is now holding 22 registered players in its top team, anytime ready to get out of the amateur to pounce on a position in the professional league. "Aventura" means "Adventure" in Portuguese. They named the club wishing to become a team "Pursue adventures while stepping up to the next stage", that is; not only focusing on the defense, but also charging aggressively to snatch the ball. We interviewed Mr. Osamu Nagaoka, Chairman of Fairy Sports Club, NPO Organization operating the club.



—Could you tell us about stories behind the scenes on establishment of this NPO Organization and the club?

I, myself started playing football very young, naturally joined football club at Senior High School. Always be determined and tenacious on everything you are doing, that was what football taught me. I could not forget how I enjoyed support from my teammates and managers. Even after an injury forced me to put an end to my career as a player, I wished to be of help in the realm of football in my own way. And if I do so, the place must be my second hometown Kawaguchi, I thought. Because this place is full of people sharing the same burning passion. So, I established the organization, then founded the club with the hope of working together with various kinds of people.

—Could you tell us about the club and organization's earliest days' episode?

My first task was to form a solid framework of the club. Then I started to visit local companies to ask for support by showing our clear visions. Even today I sometimes visit companies with no appointment. Some of my senior teammates from Senior High School football club helped me looking for supporters who had similar visions of liven up Kawaguchi with us. Owing to these wonderful encounters and relationships, we can keep going now.



—May we ask how players usually do?

Matches and events are usually held on Saturday or Sunday. They work on weekdays, have combined practice session on Tuesday and Friday evening. Lucky enough for us, we have started having practice session on Thursday morning, too. It is all owing to each player's employer's cooperation. You see, most matches are held during the daytime, so to be able to have practice sessions in the same time zone is what we have been really needed.

—We heard that you are sympathizing with the J. League's ideal of "Club exists with community". Could you tell us more about it?

Through hard and steady activities like educating children by way of football, joining events with local companies, etc., we must endeavor to make the club more and more close to the residents of Kawaguchi City to become "the club which local people can be proud of". In the future, we would like to engage in such activities that connects football and environmental development, as to plant a street tree when we can score a goal.

We would like you all to know about "Aventura Kawaguchi" through local activities and events, and to get stronger as a football club than ever before with your support, then one day welcome the day to be promoted to the J. League. I appreciate your never-failing support. Thank you.



Recently they have as many as 700 – 800 supporters gather to cheer them up at a match. Let us look forward to applauding a Kawaguchi home-grown J. League football club. Let us keep watching and rooting for Aventura Kawaguchi!

Aventura Kawaguchi official website:
<https://aventura-kawaguchi.co.jp>



Feel the Local Art at Atlia!

Walk 8 minutes from JR Keihin-Tohoku line, Kawaguchi Station East Exit, you will find a white, square one-story building called municipal art gallery “Atlia” right next to Ario-Kawaguchi shopping mall. Since its open in April 2006, this gallery has been presenting exhibitions of Kawaguchi related arts and holding poster competitions by working together with local schools. Also, by hiring out exhibition rooms and studios, they welcome aspiring artists to hold one-person exhibitions here. Not only long-term exhibitions, but one-day events that includes workshops, fun practical courses, artwork stroll, lectures on artwork appreciation, etc. are held at this gallery.

Workshops have a wide range of programs from creating artworks with instructors to experiencing performing arts or artwork appreciation. Most are designed for younger-age Elementary Schoolers. In the past, they held such events that anybody could join and enjoy as creating a 2-meter-height huge vessel by combining newspapers and duct-tape, or soap carving, etc.

At fun practical courses, you can create art objects by learning technical skills from craftspeople and artists. This course attracts wide range of enthusiasts from beginners to experienced, Junior and Senior High Schoolers to adults. Each course provides you lesson on creating more specific art objects. So far, they held events on making Japanese-style fishing rod, one of Kawaguchi’s traditional handcraft objects, and making brass-work butter-knife.

Artwork stroll is a fieldwork program in which participants appreciate architectures and sculptures in town by strolling about. Especially at courses like “Fieldwork on Kawaguchi’s Modern Architectures”, in which you tour round modern architectures in the City which had been constructed in Meiji – early Showa period. It is interesting that you will find different views by observing them from a bit different perspective.

At lectures on artwork appreciation, you can enjoy talks of researchers and specialists on each topic. I have visited “Manhole Cover Appreciation Course” held on September 10, 2022. I was told that manhole covers had a long history, that first one was introduced to Japan in mid-Meiji period. With the expansion of sewerage system installation, they had spread nationwide. Today, you even see some colored manhole covers in some tourist sites. It was an enlightenment to me that manhole covers, which is too familiar to notice in your everyday life, will become something more aesthetic once you have learned about its background stories and differences in designs.

From the 2023 fiscal year, operation system of this facility will be transferred from Kawaguchi City’s direct operation to a contracted operation, to become a facility more beloved by locals than ever before.

You can check further event schedule in “*Kouhou Kawaguchi*” Newsletter”. Why do not you visit to come in contact with artworks in your neighbors in this comfortable season for art appreciation.



English



Kawaguchi Municipal Art Gallery・Atlia

Address : 76, Namikimotomachi 1-chome, Kawaguchi City, Saitama Prefecture.

Phone: 048-253-0222

Official website: <https://www.atlia.jp> ※Accessible till March 2023.



Japanese Elementary Schools

Japanese school year starts in April. Entrance Ceremony is also scheduled in the same month. School systems and rules vary according to countries. “My child enters Japanese Elementary School very soon, though I have no idea what it is like”, we think not a few people have anxiety like this. Today, wishing to alleviate a bit of your anxiety and to be able to enjoy the school, we are going to show you distinctive features of Japanese Elementary School and how a day time schedule goes there.



<Distinctive Features of Japanese Elementary School>

Pupils learn subjects such as Japanese, Social Studies, Mathematics, Science, etc. Also have out-of-school activities as Educational Visiting, School Trip, etc. to learn history or cultures. Elementary School also teaches social rules of a group life and a sense of responsibility by assigning them to fulfill the duty of school-meal preparation and classroom-cleaning.

At most schools abroad, teachers' responsibility may be limited to teach subjects. However, the most distinctive feature of Japanese Elementary School is that teachers give instruction on everyday manner as well as teach usual subjects at school.

<A day at Elementary School> ※Each area and school adopt different schedules and routines.

Morning, pupils in the same area get together and come to school in groups. Most schools adopt this system. After they got to each classroom, they will have a small class meeting called "Asa-no-kai", where teacher calls the roll. They have 4 classes in the morning, each class lasts 45 minutes.

Pupils have lunch together. Each time, a group of children in school apron who are assigned to serve school meal dish out meal to classmates. After lunch, they clear trays and cutlery all together. School aprons are taken back home to wash by each child who was in charge of the school meal that week, then bring it back to school next Monday. Cost for school meals is about ¥4,000 per month. After lunch is a cleaning time. They clean classrooms, halls, and toilets for themselves.



Number of afternoon classes depends on which year you are in. After finishing the whole day's schedule, they will have a small class meeting called "Kaeri-no-kai". Classroom teacher tell the next day's schedule and homework of the day, etc. and each pupil note it down in a Correspondence Notebook called "Renraku-cho". This Renraku-cho is an essential correspondence tool that connects parents and teachers. When parents have something to tell to teacher, they can write it in this. Aside from this tool, school often hands out printed-out papers to announce school events and

others. If you have problems to read and understand Japanese documents, it would be better to tell the school about it in advance.

After this Kaeri-no-kai, pupils leave school. Some schools adopt the rule of sending pupils, especially for younger age ones, home in groups. Children who are taking after-school caring program due to parents' working schedule spend the time there until parents come to pick them up.

Could you get a glimpse of Japanese Elementary School routines? Many Japanese schools have "Open School Day". Anybody can visit and tour round the school. Take this opportunity to get to know about Japanese schools. You can check information on Open School Day on City's website. For further information on Japanese Elementary School systems, please visit the URL below.

- Guide for foreign students to start Procedures for Entering Japanese Schools (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology) https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1320860.htm



- "Before Entering Japanese Elementary School" (Aichi University of Education) <https://resource-room.nihongo.aichi-edu.ac.jp/about/leaflet>



The 14th Japanese Speech Contest by Foreign Residents in Kawaguchi City

On October 16, 2022, the 14th Japanese Speech Contest by Foreign Residents in Kawaguchi City was held at Kawaguchi station side municipal hall *FRIENDIA*. Foreign residents living, working, or studying in Kawaguchi City whose mother tongues are not Japanese delivered speeches under the given theme. This contest is organized each year on the purpose of realizing mutual understanding between different cultures and coexistence of people in that situation.



This year's theme was "My Favorite Japanese Words". With words and phrases as "Never lose your initial enthusiasm", "Heaven does not create one person above or below other person", "Every failure is a step-stone to success", etc, each contestant talked about their own stories on how they have got fascinated by these words and what they have learned from them.

The result of a fair and unbiased judgment comes as follows.

Prize	Name	Country	Title
Gold Prize	ZHANG HUA	CHINA	All the Way from Very Green to Still Green
Silver Prize	FA YIHUI	CHINA	A Word of a Man on ¥10.000 Bill
Bronze Prize	HUANG HUIYAO	CHINA	Heart of “Compassion”
Best Effort Prize (In order of appearance)	CHI MAN	CHINA	Live This Moment
	GUO LIANJUN	CHINA	Keep It Up
	TRAN BICH THAO SUONG	VIETNAM	Japan’s Proverb That Has Changed My Mind
	WANG YAXIANG	CHINA	My Favorite Japan’s Proverb; “So Many Men, So Many Minds”
	TA THI THAO	VIETNAM	Unforgettable Memory in Learning Japanese
	LONG GUOWEI	CHINA	Let’s Start With “Too Good to Waste”; Always Keep “Revere Heaven, Love People” in Mind

Gold Prize winner, Mr. ZHANG HUA introduced the famous phrase of *Zeami*, a creator of the *Noh* drama in its present form, “Never lose your initial enthusiasm” in his speech “All the Way from Very Green to Still Green”. He confidently talked about how he pondered about what “Initial enthusiasm” really was by superimposing it on his own experience to found that “Life is a journey of challenges till the end of your day. I realized that you must not forget your immaturity every time you set your hand to something new”. We interviewed him after the contest.



—Congratulations on your Gold Prize winning. How do you feel about receiving the prize?

ZHANG : I am honored, though, I think I still need to work harder.

—How have you made ready for the contest?

ZHANG : Mr. Kitahara from *Saiwai Nihongo Hiroba* coached my speech every Sunday. Given grammatical and pronunciation correction from him, I reviewed my speech at home, too. I also had a rehearsal in front of peers at *Saiwai Nihongo Hiroba* to get a glimpse of what it is like to speak on the stage.

—Could you tell us how did you meet this word ; “Never Lose Your Initial Enthusiasm”?

ZHANG : I visited Kyoto in May and had a chance to enjoy *Noh* performance there. I was captivated by the charms of *Noh* there and then. In the course of studying about *Zeami*, I came across this word; “Never Lose Your First Enthusiasm”.

—You have vigorously talked about “Life is a journey of challenges”. May I ask you about your current challenges or efforts?

ZHANG : I am now working to understand more about Japanese society by communicating with Japanese people. It is indeed comfortable to stay inside a circle of people from my own country, though that will make an invisible wall between real Japanese society and ours. I believe that to come out of your realm and try to have a communication with Japanese to understand about Japanese society is crucial to keep living in Japan.

—In conclusion, can you give a message for readers?

ZHANG : There is one thing I would like to say to newcomers in Japan. Please look for volunteered Japanese language classes around you. The most important thing is that once you found classes that teaching hour and method are good for you, jump in and keep learning there. You will have occasions to talk with Japanese people. Talking to Japanese will open your eyes then you will start to see other’s way of thinking and values. I am sure it will broaden your vision. First and foremost, come out of your shell and try to communicate with Japanese!

Mr.ZHANG, I can see your perseverance to learn Japanese cultures and values through communication with Japanese. I cannot help but wishing him to stay here as long as he can to become a key person between foreign residents and local community.



Japanese Language Class in Kawaguchi City ～*Shiba-Minami* Japanese Class～

39,000 out of 600,000 residents of Kawaguchi City consists of foreign residents. As a place to teach Japanese for those non-Japanese speakers, they started volunteered “*Shiba-Minami* Japanese Class” in July last year. We interviewed Mr. Nakajima, an organizer, about how are they doing in this class.

<To secure a place to learn for foreign residents>

Today, Kawaguchi City is known as having the vast number of foreign residents. Administrative services for accepting foreign residents have been improved in some way, while places to teach Japanese language are still not enough. Volunteered Japanese language classes are indeed exist, though they scatter about the city, and few of them accept small children.

The top two areas holding largest number of foreign residents are *Yokosone* area and *Shiba* area. These two areas account for about fifty percent of the whole number. However, despite its second largest population of foreign residents, there is few Japanese classes in *Shiba* area.

Some learners were coming all the way from *Shiba* area to *Yokosone* area to learn Japanese. To solve this situation one by one, Mr. Nakajima, who had organized a class at *Yokosone* Kominkan, have opened a new Japanese class at *Shiba Minami* Kominkan.



<Live together rather than just to support>

Most learners here are from China. They come to this class with their siblings or other family members. Off course it is not forbidden to bring small children. Sometimes there are learners who did not have a chance to learn how to read their own country’s language. Even that case, you can somehow lead a life in Japan if you can obtain the minimal standard of Japanese conversation skill. It is Mr. Nakajima’s wish that each non-Japanese speaker can one day expand the realm of their field on their own. For that purpose, “Give support, do everything for them” is not what they need. What they establish here is a place and relationships in which learners and teaching volunteers learn together, as well as grow together after failures.

<Method of teaching Japanese: Try to know and accommodate with each learner’s needs and necessities>

At *Shiba Minami* Japanese class, they section a class by each learner’s requirements and language levels to provide more attentive lessons. For instance, taking one learner-one teacher, or more, system. By this, they respond to their wide-ranging request from “want to learn Japanese from scratch” to “want to prepare for Japanese-Language Proficiency Test”. Also, they employ “Learn together” form in which Multiple learners and multiple volunteers share the same knowledge, such as to share the information on disaster prevention or other country’s cultures. In addition to this, they have events that involve Japan’s traditional games and plays during New year season.



<After the interview>

I also talked with other volunteer teachers. I could see their enthusiasm and fervor in teaching Japanese to foreign residents. The atmosphere seemed to be peaceful in that new and spotless Kominkan building. I, myself, could spend fruitful and precious time there.



Name of Class: *Shiba-Minami* Japanese Class
(List of Japanese Language Class in Kawaguchi City No.16)
Open: Saturday 11:00 ~13:00
Place: *Shiba-Minami* Kominkan (walk 14 minutes from JR Keihin-Tohoku line Warabi station East Exit)
Contact: 090-6536-4934 (Mr. Nakajima)



让我们为以进入J联赛为目标的“川口冒险队”加油！

在川口有一支以进入日本职业足球最高联赛J联赛为目标而努力的足球队。就是川口冒险队。

该队成立于2008年，目前一线队伍中有22名球员，他们正努力从业余选手队升入职业联赛。“Aventura”在葡萄牙语中意为“冒险”。作为一支重视在防守的同时寻求突破并抢球的球队，包含着“以冒险精神上挑战（进入J联赛）为目标”的愿望而命名。我们采访了运营该球队的NPO法人Fairy体育俱乐部的理事长长冈修先生。

——您是如何想到要成立NPO法人并组建球队的？

我自己从小就开始踢足球，在进入县立川口高中后也加入了足球部。从足球中我学到了无论做任何事情都要积极并坚持。为了感谢同伴们和教练对我的帮助，二十多岁的时候因伤结束球员生涯之后，决定为足球事业贡献自己的力量。因此，选择在我的第二故乡——川口这个有很多热情的人的地方，与大家一起努力。抱着这样的想法，我成立了法人并组建了球队。

——可以告诉我们建立球队和团队之初的情况吗？

首先认真地组建球队，然后去拜访当地的企业并展示我们的前景来寻求他们的支持。即使是现在，我们仍然会在没有预约的情况下直接去企业访问。我高中足球部的前辈也会介绍那些热衷于振兴川口的人们来帮助我们。正因为这样的际遇和人脉，才有了今天的我们。



——可以跟我们说说球员们的日常生活吗？

通常周六和周日我们有比赛和活动，平时大家都有工作，在周二和周五晚上进行训练。最近，在球员所属公司的协助下，在周四上午我们也可以进行训练了。因为比赛通常在白天进行，因此能够在比赛的同一时间段进行训练是非常重要的。

——您对J联赛“球队与地区共存”的理念是有所认同吧。

我们认为通过足球对儿童进行培养，以及通过与企业合作举办活动等方式拉近川口市民和球队的距离，使球队成为“地区值得骄傲的存在”是很有必要的。今后，我们打算通过开展例如球员每进一球，我们就在路边种植一棵树等类似这样的活动，把足球和环境问题联系起来。

通过地区性的活动，让更多的人知道川口冒险队，有他们作为后盾，我们的球队会变得更加强大，最终必定能够进入J联赛。请大家支持我们。

最近，有700-800名市民来观看比赛为我们加油。让我们一起为川口冒险队加油，期待有一天川口能诞生出一支J联赛的球队！

川口冒险队官方主页：<https://aventura-kawaguchi.co.jp>



去ATLIA体验一下身边的艺术吧！

从JR京滨东北线川口站东口步行8分钟，在Ario川口旁边，有一座单层的白色四方建筑，它就是川口市立艺术画廊ATLIA。ATLIA于2006年4月开始对外开放。举办展示与川口相关的作品的企划展，以及与当地的学校合作的海报比赛这类展览会。另外还出租展览室、工作室，举办艺术家个人画展等。还有，ATLIA不仅举办长期的展览，还举办单天活动。这些活动包括工作坊、有趣的实际技巧讲座、艺术散步和通俗鉴赏讲座，等等。

工作坊是一个与讲师一起体验作品创作、身体表达和鉴赏的项目。安排有很多如小学低年级学生这样岁数小的孩子也可以参加的内容。到目前为止，举办过将报纸和胶带组合起来制作大约2米长的大船，以及尝试在肥皂块上雕刻等企划活动。这些内容让所有的人轻松享受到了乐趣。

有趣的实际技巧讲座是由工匠或者作家来当讲师，参加者边学习专业技法边进行制作。这一讲座的内容能让从初学者到有经验的人，从初高中学生到成年人，广大年龄层的人都从中获得乐趣，很吸引人。在这个讲座中大家可以体验到更为真格的制作。以前举办过的企划活动包括制作川口的传统产业和竿（日式钓鱼竿），用一种叫做黄铜的金属制作黄油刀，等等。

艺术散步是一个走出ATLIA，在户外举行的项目。参加者在城市中漫步，观察建筑物和雕塑。例如走访从明治时代到昭和时代早期建造的摩登建筑的“川口摩登建筑探访”等的活动，从稍微不同的视角观察这个城市，能看到与通常不同的风景，让人很感兴趣。



通俗鉴赏讲座是以由研究员或者专家围绕各种不同的主题讲课，参加者听讲的形式进行。实际上，我也参加了2022年9月10日举办的“下水道井盖鉴赏讲座”。下水道井盖的历史悠久，据说日本是在明治中期开始安装的。之后，随着下水道的广泛分布，下水道井盖也遍布全国。近年还开始出现涂上了色彩斑斓的颜色的“图案井盖”，安装在旅游景点等地方。在了解了相关的历史知识和图案设计上的差异之后，平常看起来很平淡的下水道井盖也变得耐人寻味，很有意思。

从2023年度开始，ATLIA将从市政府的直接经营改为采用由市政府指定的管理人经营的制度，致力于将它经营成为更受市民喜爱的设施。

关于今后将举办的活动，可以在《广报かわぐち》(市刊杂志)上确认。在这个天气逐渐变暖让人过得更加舒服的时期，大家何不也去体验一下身边的艺术呢？



川口市立艺术画廊ATLIA

地址：埼玉县川口市并木元町1-76

电话：048-253-0222

官方网站：<https://www.atlia.jp> ※该网站运作到2023年3月为止



关于日本的小学

在日本，新学期从四月开始，并举行入学典礼。不同国家的学校生活及规则都有所不同，因此可能有不少外国人会觉得“虽然孩子马上就要进入日本的小学学习了，但是很难想象小学生活是什么样的”。为了减轻类似这样的不安，让孩子们能够过上快乐的学校生活，在此对日本小学的特点以及一天的流程进行介绍。



<日本小学的特点>

在日本的小学，学生不仅学习国语、社会、算数、理科等学科，还有机会参加社会课实地考察和修学旅行等，在校外学习历史和文化，进行各种体验。另外，通过准备午餐和扫除等活动，赋予孩子们各种各样的职责，以学习集体生活的规则以及培养他们的责任感。

国外的学校，老师的工作是以教学指导为主，而日本的小学，老师不仅要对学生指导，也要对生活等方面进行指导，这也是日本小学的特点。

<小学一天的流程> ※不同地区和学校在做法和时间安排等方面有所不同

早晨，很多学校都是集体上学，就是和住在附近的孩子组队一起去学校。到校后，各个班级会分别召开晨会，点名检查出席情况。上午有4节课，每节课45分钟。

中午在教室里和大家一起吃午餐。轮到值日的孩子会穿着供餐专用服，把饭菜分配到大家的餐盘中，吃完后由大家一起收拾。星期五的时候孩子会把供餐专用服带回家，洗干净后在下个星期一再带回学校。午餐费大约1个月是4000日元。午餐之后，孩子们会对教室、走廊和厕所等进行打扫。

下午的课时根据年级不同而有所不同。在一天的课程结束之后，会举行放学前的集会。老师会布置第二天的安排和家庭作业等联络事项，由孩子自己将这些内容写入“联络手册”中。联络手册是学校和家长之间进行沟通的重要方式。家长向老师传达信息时也会使用联络手册。除了联络手册以外，学校也会发通知。如果家长阅读日语的通知有困难，可以提前跟学校打招呼。

放学前的集会结束后，特别是低年级学生会按年级分成小组回家。有的学校也会实行集体放学。由于父母工作等原因，需要参加放学后儿童俱乐部的孩子将在那里等家长来接他们回家。

大家对日本小学有了初步的印象了吗？在日本，有很多小学会举行“校园开放”活动。校园开放时，任何人都可以对学校的教学进行参观，这是一个了解小学的好机会。川口市的各个学校的开放日可以在市的主页上进行确认。如果想要更多地了解日本小学，请搜索并参考以下网址。

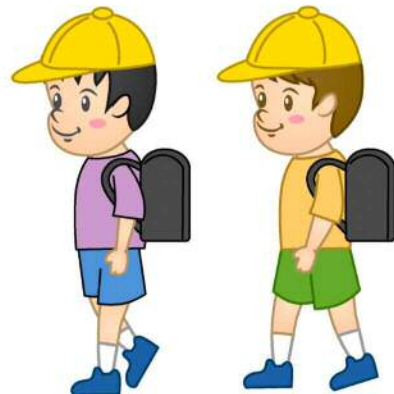
- 外国人儿童学生的就学指南（文部科学省）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1320860.htm



- 《日本小学入学前》手册（爱知教育大学）

<https://resource-room.nihongo.aichi-edu.ac.jp/about/leaflet>



第14次川口市外国人日语演讲比赛

2022年10月16日，在川口站前市民大厅FRIENDIA举行了第14次川口市外国人日语演讲比赛。参赛者为在川口市内居住、工作或学习，且母语不是日语的外国人，大家围绕指定的主题进行演讲。这一比赛每年都举行，旨在促进日本人和外国人之间相互理解，实现共生。

今年的主题是“我喜欢的日语词句”。参赛者在演讲中通过穿插自身的经历，讲述自己为什么喜欢上那个词句，从那个词句中学到了什么，等等。他们喜欢的词句有“不忘初心”，“天不造人上之人，亦不造人下之人”，“失败乃成功之母”等。

经过严格的评审，结果如下。

奖项	姓名	国籍	演讲题目
金奖	张华	中国	回归初心
银奖	法伊辉	中国	一万日元纸币上的男子的话
铜奖	黄慧瑶	中国	“体贴之心”
参与奖 (按出场 顺序)	池漫	中国	活在当下
	郭联军	中国	加油
	陈碧草霜	越南	改变了我的日本谚语
	王亚香	中国	我喜欢的日语词句“十个人十个性”
	谢侍草	越南	学日语时留下的回忆
	龙国伟	中国	从“太浪费了”出发，将“敬天爱人”永记心中

获得金奖的张华先生在《回归初心》演讲中介绍了世阿弥（日本室町时代初期的能剧演员、能剧作家）的名言“不忘初心”。在演讲中，张先生结合自身的经历对“初心”是什么进行了思考，并坚定有力地说：“人生自始至终都充满挑战。我意识到，在挑战过程中绝不能忘记自己还不成熟”。比赛结束后，我们采访了张先生。

—— 恭喜您获得金奖。能说说您现在的心情吗？

张：我很高兴，但我还要更加努力。

—— 为了这次演讲比赛您做了什么样的准备？

张：每个星期天，我都与幸日语广场（日语教室的名称）的北原老师一起练习。老师帮我纠正语法和发音上的细微错误，在此基础上在家里继续练习。另外，为了在正式上台演讲时不紧张，我也在幸日语广场的所有人的面前进行了演讲。

—— 您是怎么邂逅到“不忘初心”这个词的？

张：我五月份去京都旅行时，观看了能剧的舞台表演。从那时起，我开始对能剧感兴趣，在学习世阿弥的过程中，我邂逅了“不忘初心”这个词。

—— 在演讲中，您坚定有力地说到“人生就是一场挑战”。现在，您是否有正在挑战的事，或者正在努力的事？

张：我正在努力与日本人交流，努力加深自己对日本社会的了解。虽然与自己的国家的人交流也很有趣，但是只跟自己的国家的人交流就会脱离日本社会。我认为，鼓起勇气积极与日本人交流，了解日本社会，这对于想在日本长期居住下去的人来说是很有必要的。

—— 最后您还有什么想说的吗？

张：我想对那些刚从外国来日本的人说几句话。希望你们一定要去志愿者日语教室参观学习。找到适合自己的日程安排、适合自己的学习方法的教室，并在那里坚持学习下去。我认为这很重要。在日语教室，你可以和日本人交谈。通过与日本人交谈，你可以了解到对方的想法和价值观，并拓宽你的视野。第一步，请你鼓起勇气，尝试着去和日本人交流吧！

还在通过与日本人的交流，持续不断地、积极主动地学习日本的文化和价值观的张先生，我们希望您今后继续在川口长久居住下去，为日本人和外国人架起一座桥梁！



川口市志愿者日语教室的介绍

～芝南日语教室～

在川口市60万左右的总人口中，约有39,000人是外国人。作为外国人学习日语的场所，去年7月新的志愿者日语教室“芝南日语教室”开始活动了。此次，我将向大家介绍对该教室代表中岛先生进行的采访和教室的情况。

<给外国人提供学习的场所>

现在川口市已经成为了外国人很多的城市。市内接受外国人的环境基本完善，但缺乏学习日语的场所。市内的日语教室位置分散在各个地区，还有些教室很难接受小孩子。

横曾根地区外国人最多，其次是芝地区，这两个地区的外国人占总数的一半左右。但是，在外国人第二多的芝地区，日语教室却很少。据说有的学员甚至从芝地区开车到横曾根地区的教室学习。为了逐步改善这种状况，以前，作为开设在横曾根公民馆中的日语教室的代表开展活动的中岛先生，在芝南公民馆开设了新的日语教室。



<不是支援而是共生>

据代表介绍，来学习的大部分是中国人，很多都是带着兄弟姐妹等家人来的，小孩也可带来。从外国来到日本的人中，有些人连自己的母语都看不懂，但即便如此，在日本，只要能说最低限度的日语，他们仍然可以在日本谋生。中岛先生希望也能为这样的成年人提供一个学习日语的场所，即使需要多花一点时间，也希望外国人能靠自己的力量扩大独立活动的范围。但这并不意味着“支援外国人，帮外国人做”。他们更加重视学员和志愿者一起学习，一起经历失败，以达到共同成长的关系。



<日语学习方法：采取将学员的需求和必要性相结合的措施>

在芝南日语教室，志愿者结合学员的需求和日语水平，认真细致地教授日语。例如，采取一名学员由一或多名志愿者进行指导的方式。从第一次学习日语的人，到想参加日语能力考试的人等，各种各样的需求都可以对应。另外还采取了多名学员与多名志愿者一起学习的方式。这是进行例如，共享防灾信息和介绍各国的文化这样的学习方式。此外，在年末年初，有时还会举办融入了日本游戏的活动。

<通过采访感受到的事情>

我也采访了中岛先生以外的志愿者，大家都非常积极努力地帮助外国人学习日语。公民馆的建筑物又新又漂亮，教室很明亮，大家的氛围都很融洽。这对我来说也是一段受益匪浅的，非常有意义的时光。因为我学到了很多的东西。

教室名称：芝南日语教室

(川口市志愿者日语教室一览表No. 16)

活动时间：每周六上午11点～下午1点

地点：芝南公民馆（JR京滨东北线蕨站东口步行14分钟）

联系方式：090-6536-4934（中岛先生）



Hãy cổ vũ cho đội tuyển Aventura Kawaguchi dành vé dự J. League !

Tại Thành phố Kawaguchi có đội bóng đang nỗ lực hết sức để giành suất tham dự J. League – Giải bóng đá chuyên nghiệp cao nhất Nhật Bản. Đội tuyển “Aventura Kawaguchi”.

Đội tuyển được sáng lập từ năm 2008, hiện có 22 cầu thủ đang chơi cho các câu lạc bộ hàng đầu, với mục tiêu tiến vào giải đấu chuyên nghiệp từ những người nghiệp dư. “Aventura” trong tiếng Bồ Đào Nha có nghĩa là “cuộc mạo hiểm”. Là đội bóng đề cao phong thủ, nhưng cũng dâng cao tranh cướp bóng, tên gọi này được đặt cho đội tuyển với khát khao “mạo hiểm, đạt mục tiêu tham dự J. League”. Chúng tôi đã phỏng vấn ông Nagaoka Osamu - Chủ tịch Câu lạc bộ thể thao phi lợi nhuận Fairy - điều hành đội tuyển.



--Ông đã suy nghĩ như thế nào về việc sáng lập Tổ chức phi lợi nhuận, thành lập đội tuyển?

Bản thân tôi đã chơi bóng đá từ khi còn rất nhỏ, sau khi vào trường THPT Kawaguchi tôi đã gia nhập đội tuyển bóng đá của trường. Tôi học được từ bóng đá sự kiên trì theo đuổi, luôn hướng về phía trước dù hoàn cảnh nào, và tôi rất biết ơn sự giúp đỡ mà tôi nhận được từ ban huấn luyện, và các đồng đội của mình. Nên sau khi kết thúc sự nghiệp cầu thủ do chấn thương ở độ tuổi đôi mươi, tôi mong muốn cống hiến cho bóng đá bằng những việc tôi có thể làm. Chính vì vậy tôi đã sáng lập ra tổ chức, thành lập đội tuyển với suy nghĩ nếu tôi có thể làm được tôi muốn cùng với mọi người tích cực hoạt động tại Kawaguchi, quê hương thứ hai của tôi nơi có rất nhiều người đam mê thể thao.

--Xin ông vui lòng chia sẻ về thời điểm sáng lập tổ chức, thành lập đội tuyển.

Trước tiên, chúng tôi phải xây dựng một đội ngũ vững chắc, trình bày rõ hoài bão hướng đến, kêu gọi sự hỗ trợ từ các doanh nghiệp địa phương. Ngay cả bây giờ, thỉnh thoảng tôi vẫn đến thăm các công ty mà không hẹn trước. Thành viên trong câu lạc bộ bóng đá ở trường trung học đã giúp tôi rất nhiều trong việc giới thiệu tôi với những người có sự đam mê mong muốn làm cho Kawaguchi ngày càng sôi động hoạt náo hơn. Nhờ những cuộc gặp gỡ và kết nối này, mới có chúng tôi của ngày hôm nay.



--Xin ông hãy chia sẻ về sinh hoạt hằng ngày của các cầu thủ.

Chúng tôi có các trận thi đấu, sự kiện vào thứ bảy và chủ nhật, làm việc vào các ngày trong tuần, luyện tập vào các tối thứ ba, và thứ sáu. Gần đây nhờ sự hợp tác từ phía công ty mà các cầu thủ trực thuộc, chúng tôi có thể luyện tập vào sáng thứ năm. Vì các trận thi đấu thường diễn ra ban ngày, nên có thể luyện tập giống với thời gian thi đấu cũng là yếu tố rất quan trọng.

--Có phải ông cũng đồng ý với quan điểm của J. League “đội tuyển đồng hành cùng cộng đồng”

Tôi nghĩ rằng cách nuôi dưỡng trẻ em thông qua bóng đá, thêm với tích lũy sự kiện có sự cộng tác của các doanh nghiệp đã giúp người dân Kawaguchi cảm thấy gần gũi hơn với đội tuyển, khiến chúng tôi phải trở thành “sự hiện diện đáng tự hào của khu vực”. Trong tương lai, chúng tôi mong muốn kết nối bóng đá với vấn đề môi trường chẳng hạn như cứ mỗi bàn thắng được ghi bởi cầu thủ thì cũng có thêm một cây xanh được trồng trên đường.

Thông qua hoạt động cộng đồng, dù chỉ thêm một người hay được nhiều người biết đến Aventura Kawaguchi, thì sự hỗ trợ từ phía sau này cũng sẽ giúp chúng tôi trở nên mạnh mẽ hơn với tư cách là một đội bóng, nhất định sẽ đi đến J. League. Mong mọi người hãy ủng hộ.

Gần đây, đã có khoảng 700-800 người dân đổ đến để cổ vũ cho trận thi đấu. Chúng ta hãy cùng ủng hộ cho Aventura Kawaguchi và mong chờ ngày một đội bóng J. League ra đời từ Kawaguchi!

Trang chủ chính thức Aventura Kawaguchi: <https://aventura-kawaguchi.co.jp>



Hãy tiếp cận với nghệ thuật theo cách thật gần gũi tại Atlia!

Khoảng 8 phút đi bộ từ cửa ra phía Đông ga Kawaguchi tuyến JR Keihin Tohokusen. Bên cạnh tòa nhà thương mại Ario Kawaguchi, có một tòa nhà hình vuông màu trắng một tầng, phòng triển lãm nghệ thuật Atlia. Phòng triển lãm được mở từ tháng 4 năm 2006. Là nơi tổ chức các buổi triển lãm như triển lãm trưng bày các tác phẩm liên quan đến Kawaguchi, cuộc thi ảnh phối hợp với các trường học tại địa phương. Ngoài ra, còn có triển lãm cá nhân của các nghệ sĩ, cho thuê phòng triển lãm, hội trường. Tại Atlia, bên cạnh những cuộc triển lãm dài ngày, cũng có các sự kiện một ngày. Những sự kiện được tổ chức bao gồm hội thảo, khoá học rèn kỹ năng thực hành thú vị, thường ngoạn nghệ thuật, khoá học bình phẩm nhẹ nhàng.

Hội thảo là một chương trình trải nghiệm mà bạn có thể tạo ra các tác phẩm, thể hiện hình thể, bình phẩm cùng người hướng dẫn. Nhiều chương trình được chuẩn bị để trẻ em, học sinh dưới tiểu học cũng có thể tham gia. Cho đến nay, chúng tôi đã tổ chức các dự án với nội dung phong phú vui nhộn mà bất cứ ai cũng có thể hoà mình tham gia như làm con tàu lớn khoảng 2m từ giấy và băng dính, tạo hình xà phòng.

Trong khoá học rèn kỹ năng, thực hành thú vị những người thợ thủ công, nghệ nhân đóng vai trò người hướng dẫn sẽ giúp bạn có thể vào học kỹ thuật, vào làm sản phẩm. Điều hấp dẫn của khoá học là nội dung đa dạng cho tất cả mọi người từ những người mới tham gia lần đầu, đến cả người đã có kinh nghiệm, từ học sinh trung học đến cả người lớn. Thông qua khoá học này bạn có thể trải nghiệm việc tạo ra các sản phẩm một cách chân thực. Cho đến nay chúng tôi đã tổ chức các dự án làm các sản phẩm vốn là ngành nghề công nghiệp truyền thống tại Kawaguchi như làm cần câu cá Wazao, dao quét bờ từ đồng thau.



Thường ngoạn nghệ thuật là chương trình được tổ chức ngoài trời bên ngoài Atlia, du khách có thể đi bộ quanh thành phố ngắm nhìn các tòa nhà và kiến trúc điêu khắc. Thật thú vị khi được dạo quanh chiêm ngưỡng các kiến trúc hiện đại xây dựng từ thời Minh Trị đến đầu thời Showa trong một bầu không khí khác, dưới một góc nhìn khác qua chuyên “khám phá kiến trúc hiện đại Kawaguchi”.

Khoa học bình phẩm nhẹ nhàng là một dạng bài giảng mà ở đó bạn nghe các nhà nghiên cứu, và chuyên gia nói về các chủ đề khác nhau. Tôi đã được tham gia “khóa học bình phẩm nắp cống thoát nước” tổ chức vào ngày 10 tháng 9 năm 2022. Nắp cống có lịch sử lâu đời, chúng được cho là đã được lắp đặt lần đầu tiên tại Nhật từ giữa thời Minh Trị. Sau đó, cùng với sự mở rộng hệ thống thoát nước, nắp cống được nhân rộng ra khắp cả nước. Gần đây những chiếc “nắp trang trí” nhiều màu sắc được làm ra và lắp đặt tại các điểm du lịch. Tìm hiểu về sự khác biệt trong lịch sử và thiết kế của những chiếc nắp cống vốn dĩ trông bình thường trong đời sống hàng ngày, lại trở thành một vật có ý nghĩa quả thật là một điều thú vị.

Từ năm 2023, phòng triển lãm sẽ được chuyển từ quản lý trực tiếp bởi thành phố sang quản lý bởi đơn vị được chỉ định, và sẽ vận hành hướng tới mục đích trở thành một cơ sở thân quen hơn với người dân.

Bạn có thể tra cứu các sự kiện được tổ chức sắp tới trên báo thông tin Kawaguchi. Trong thời đại ngày nay khi mọi thứ đều trở nên dễ dàng, sao bạn không thử đi đến và tiếp cận với nghệ thuật theo cách thật gần gũi !



Phòng triển lãm Atlia thành phố Kawaguchi
 Địa chỉ: Saitama, thành phố Kawaguchi, Namiki Motomachi 1-76
 Điện thoại: 048-253-0222
 Trang chủ: <https://www.atlia.jp> *Hoạt động đến tháng 3 năm 2023



Trường tiểu học tại Nhật

Tại Nhật, kỳ thi nhập học tổ chức vào tháng tư khi học kỳ mới bắt đầu. Vì quy định và sinh hoạt tại mỗi trường khác nhau tùy theo mỗi nước, nên có thể sẽ có nhiều người nước ngoài “có con sắp vào tiểu học ở Nhật nhưng vẫn không hình dung ra được hoạt động sinh hoạt tại trường tiểu học”. Để những bất an như thế có thể vui bớt đi phần nào, để gửi đến những thông tin sinh hoạt vui tươi của trường tiểu học, chúng tôi xin giới thiệu nét đặc trưng và hoạt động một ngày tại trường tiểu học của Nhật.

<Đặc trưng trường tiểu học của Nhật>

Trường tiểu học của Nhật, sẽ học các môn học như ngữ văn, xã hội, toán, và khoa học. Có nhiều dịp để trải nghiệm học lịch sử và văn hoá ngoài học ở trường như tham quan ngoại khóa, du lịch phục vụ học tập. Ngoài ra còn có việc phân công vai trò cho trẻ trong dọn dẹp, chuẩn bị bữa ăn để trẻ rèn luyện tính trách nhiệm và tuân thủ quy tắc sinh hoạt tập thể.

Tại các trường quốc tế, công việc của giáo viên sẽ chú trọng hướng dẫn chương trình học, nhưng ở trường tiểu học của Nhật giáo viên không chỉ hướng dẫn chương trình học mà còn hướng dẫn những liên quan về cuộc sống, là nét đặc trưng của trường tiểu học tại Nhật.

<Một ngày của trường tiểu học> *Tùy theo mỗi trường và mỗi địa phương thời gian và cách thức có thể khác nhau.

Buổi sáng, hầu hết các trường sẽ lập các nhóm học sinh đang sinh sống gần trường và đi đến trường cùng nhau. Sau khi đến trường, mỗi lớp sẽ tổ chức họp buổi sáng, và điểm danh. Giờ học buổi sáng có 4 tiết học, mỗi tiết học 45 phút.

Bữa cơm ở trường mọi người cùng ăn trong lớp học. Đến phiên trực học sinh sẽ mặc đồng phục trực, bày cơm và thức ăn ra , sau khi ăn xong mọi người cùng nhau thu dọn. Vào thứ sáu học sinh đem đồng phục trực về nhà giặt sạch và đem đến trường vào thứ hai tuần sau. Phí ăn trưa ở trường là 4,000 yên một tháng . Sau bữa ăn tại trường học sinh dọn vệ sinh lớp học, hành lang, và nhà vệ sinh.

Số tiết học của giờ học buổi chiều tùy theo khối lớp có khác nhau. Sau khi kết thúc giờ học của một ngày, giờ họp cuối ngày bắt đầu. Học sinh lắng nghe dặn dò về lịch học của ngày hôm sau, và bài tập về nhà từ giáo viên, sau đó ghi chép lại các nội dung đó vào “sổ liên lạc”. Sổ liên lạc là nhật ký quan trọng liên kết nhà trường với phụ huynh. Nó được sử dụng khi phụ huynh muốn nói điều gì đó với giáo viên. Ngoài sổ liên lạc, nhà trường có thể phát thư. Nếu gặp khó khăn trong việc đọc thư bằng tiếng Nhật, xin vui lòng hãy báo trước với nhà trường.

Sau khi giờ họp cuối ngày kết thúc, một số trường sẽ chia nhóm đi về nhà, theo từng khối lớp đặc biệt là các em học sinh lớp nhỏ, cùng nhau đi về nhà. Một số trẻ sẽ tham gia câu lạc bộ thiếu nhi sau giờ học vì lí do như bố mẹ đang đi làm, sẽ ở đó cho đến khi bố mẹ đến đón.

Bạn đã hình dung ra một trường tiểu học ở Nhật chưa, dù chỉ là một chút. Nhiều trường tiểu học tổ chức “giới thiệu trường học”. Tại buổi giới thiệu trường học, vì bất cứ ai cũng có thể tham quan lớp học của trường, nên đây là cơ hội để tìm hiểu trường tiểu học là như thế nào. Bạn có thể kiểm tra lịch giới thiệu trường của các trường tại Thành phố Kawaguchi trên trang chủ của thành phố. Nếu bạn muốn biết thêm về các trường tiểu học tại Nhật, vui lòng tham khảo đường dẫn bên dưới.



•Hướng dẫn nhập học dành cho trẻ em học sinh nước ngoài (Bộ Giáo dục)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1320860.htm

•Tờ hướng dẫn “Trước khi vào tiểu học Nhật Bản” (Đại học sự phạm Aichi)
<https://resource-room.nihongo.aichi-edu.ac.jp/about/leaflet>



Cuộc thi Hùng biện tiếng Nhật dành cho người nước ngoài tại thành phố Kawaguchi lần thứ 14

Vào ngày 16 tháng 10 năm 2022, “Cuộc thi Hùng biện tiếng Nhật dành cho người nước ngoài tại thành phố Kawaguchi lần thứ 14” đã được tổ chức tại Frendia, là Hội trường thị dân trước nhà ga Kawaguchi. Đây là cuộc thi được tổ chức hàng năm dành cho người nước ngoài mà tiếng Nhật không phải là tiếng mẹ đẻ đang sinh sống, làm việc hoặc học tập tại thành phố Kawaguchi sẽ phát biểu với một chủ đề nhất định, nhằm giúp cả người Nhật và người nước ngoài hiểu nhau và cùng sinh sống với nhau.

Chủ đề lần này là “Câu nói tiếng Nhật tôi yêu thích”. Chẳng hạn như “Đừng bao giờ quên cái tâm thể ban đầu”, “Trời không tạo ra người đứng trên người và cũng không tạo ra người đứng dưới người”, “Thất bại là mẹ thành công”, v.v. các thí sinh đã trình bày lý do tại sao mình yêu thích câu nói đó và những bài học từ câu nói đó cùng với những kinh nghiệm của bản thân.

Kết quả được chấm một cách công minh, theo như sau.

Giải thưởng	Họ và tên	Quốc tịch	Tiêu đề bài phát biểu
Giải vàng	ZHANG HUA	Trung Quốc	Từ tâm thể ban đầu đến tâm thể ban đầu
Giải bạc	FA YIHUI	Trung Quốc	Lời nói của người đàn ông trên tờ 10.000 yên
Giải đồng	HUANG HUIYAO	Trung Quốc	Lòng “thông cảm”
Giải chiến đấu (theo thứ tự phát biểu)	CHI MAN	Trung Quốc	Sống cho hiện tại
	GUO LIANJUN	Trung Quốc	Cố lên!
	TRẦN BÍCH THẢO SƯƠNG	Việt Nam	Tục ngữ Nhật Bản khiến tôi thay đổi
	WANG YAXIANG	Trung Quốc	Câu nói tiếng Nhật tôi yêu thích “Mười người mười màu”
	TẠ THỊ THẢO	Việt Nam	Hội ức học tiếng Nhật
	LONG GUOWEI	Trung Quốc	Hãy bắt đầu với “Mottainai”, “Kính trọng trời đất yêu thương con người” mãi mãi

Tiếng Việt



Anh Zhang Hua giành được giải vàng đã giới thiệu “Đừng bao giờ quên cái tâm thể ban đầu” trong bài phát biểu “Từ tâm thể ban đầu đến tâm thể ban đầu” là một câu nói tiếng của ông Zeami. Sau khi suy ngẫm “cái tâm thể ban đầu” là gì cùng với những kinh nghiệm của bản thân, anh Zhang đã trình bày một cách mạnh mẽ rằng “chúng ta luôn phải thách thức đến khi mình qua đời. Tôi nhận ra rằng cứ mỗi khi thách thức một điều gì đó thì mình lại không được quên sự non nớt của bản thân mình”. Sau khi cuộc thi hùng biện kết thúc, chúng tôi đã phỏng vấn anh Zhang.

-- Chúc mừng anh đã giành được giải vàng. Bây giờ anh cảm thấy như thế nào?

Zhang: Tôi cảm thấy rất vui, nhưng tôi muốn cố gắng hơn nữa.

-- Anh đã chuẩn bị bằng cách nào cho cuộc thi hùng biện lần này?

Zhang: Tôi đã luyện tập với giáo viên Kitahara của Câu lạc bộ tiếng Nhật Saiwai vào

chủ nhật hàng tuần. Giáo viên đã chỉnh sửa những lỗi chi tiết của ngữ pháp và phát âm giúp tôi và tôi tự luyện tập những cái đó ở nhà. Để không căng thẳng khi trình bày, tôi đã luyện phát biểu trước mọi người của Câu lạc bộ tiếng Nhật Saiwai.

-- Anh đã gặp câu “Đừng bao giờ quên cái tâm thể ban đầu” như thế nào?

Zhang: Khi đi du lịch Kyoto vào tháng 5, tôi đã xem kịch No. Từ đó tôi mới bắt đầu có quan tâm đến kịch No và tôi đã làm quen với câu “Đừng bao giờ quên cái tâm thể ban đầu” trong quá trình tìm hiểu về ông Zeami.

-- Trong bài phát biểu, anh đã trình bày một cách mạnh mẽ rằng “cuộc đời là những thách thức”. Thế thì hiện tại anh đang thách thức và cố gắng về điều gì?

Zhang: Tôi đang cố gắng giao lưu với người Nhật để hiểu sâu hơn về xã hội Nhật Bản. Giao lưu với người bản xứ cũng rất vui, nhưng nếu chỉ cứ thế thì tôi bị tách ra từ xã hội Nhật Bản. Theo tôi nghĩ, can đảm và tích cực giao lưu với người Nhật cũng như hiểu biết xã hội Nhật Bản là điều cần thiết để tiếp tục sinh sống ở Nhật Bản.

-- Cuối cùng anh có muốn nói những gì không?

Zhang: Tôi muốn nói với những người nước ngoài mới sang Nhật Bản. Các bạn nhất định hãy đi tham quan những lớp học tiếng Nhật tình nguyện. Quan trọng là các bạn sẽ tìm một lớp học phù hợp với thời gian và cách học của mình để thường xuyên tham gia vào lớp đó. Trong lớp, các bạn có thể nói chuyện với người Nhật. Thông qua việc nói chuyện với người Nhật, các bạn có thể hiểu được cách suy nghĩ và giá trị quan của đối phương để mở rộng tầm nhìn của mình. Trước tiên, các bạn hãy can đảm giao lưu với người Nhật!

Thông qua việc giao lưu với người Nhật, anh Zhang đang tiếp tục tìm hiểu văn hóa và giá trị quan của Nhật Bản. Chúng tôi mong rằng anh ấy sẽ sinh sống ở thành phố Kawaguchi trong thời gian dài để làm cầu nối giữa người Nhật và người nước ngoài!



Giới thiệu lớp học tình nguyện tiếng Nhật tại Thành phố Kawaguchi - Lớp học tiếng Nhật Shiba Minami -

Thành phố Kawaguchi có số dân khoảng 600.000 người, trong đó ước tính có khoảng 39.000 người nước ngoài. Lớp học tiếng Nhật tình nguyện Shiba Minami đã được bắt đầu từ tháng 7 năm ngoái như một nơi học tiếng Nhật dành cho người nước ngoài. Lần này, xen lẫn bài phỏng vấn người đại diện Ông Nakajima, chúng tôi xin được giới thiệu về tình hình của lớp học.

<Nơi học tiếng Nhật dành cho người nước ngoài>

Thành phố Kawaguchi hiện đã trở thành một thành phố có rất nhiều người nước ngoài. Môi trường tiếp nhận người nước ngoài trong thành phố đã được cải thiện, nhưng nơi học tiếng Nhật vẫn chưa đáp ứng đủ. Địa điểm lớp học tiếng Nhật trên địa bàn thành phố nằm rải rác ở các khu vực, và một số lớp khó tiếp nhận các em nhỏ.

Quận Yosokone có số lượng người nước ngoài lớn nhất, tiếp đó là quận Shiba, và hai quận này chiếm hơn phân nửa trên tổng số. Thế nhưng, quận Shiba nơi có số lượng người nước ngoài lớn thứ hai lại ở trong tình trạng ít lớp học tiếng Nhật. Có học sinh thậm chí đã lái xe từ quận Shiba đến lớp học ở quận Yosokone. Để giải quyết phần nào tình trạng này, Ông Nakajima người đang hoạt động tích cực với tư cách người đại diện của lớp học tiếng Nhật tại Nhà văn hoá Yosokone cho biết đã mở lớp học tiếng Nhật mới tại Nhà văn hoá Shiba Minami.



<Hỗ trợ và đồng hành>

Hầu hết những học viên đến học là người Trung Quốc, nhiều người trong số họ đi cùng anh chị em, người trong gia đình hay cả trẻ nhỏ cũng có thể đi cùng. Một số học viên không thể đọc ngôn ngữ mẹ đẻ của nước họ. Ngay cả như thế, nếu có thể nói được tiếng Nhật ở mức độ tối thiểu thì vẫn có thể kiếm sống tại Nhật. Ông Nakajima hy vọng có thể đem đến một nơi học tập tiếng Nhật dành cho những người như vậy để đầu tư chút thời gian, bản thân mỗi người nước ngoài có thể mở rộng phạm vi hoạt động của mình. Nhưng điều đó không có nghĩa là “hỗ trợ, làm giúp cho” mà quan trọng chính là cả học viên và tình nguyện viên, họ coi trọng mối quan hệ học tập lẫn nhau, dù cho có mắc lỗi cũng cùng nhau phát triển.

<Phương pháp học tiếng Nhật: nỗ lực gắn kết nhu cầu của học viên với tính thiết thực>

Ở lớp học tiếng Nhật Shiba Minami, chúng tôi giảng dạy tiếng Nhật một cách chi tiết kết hợp nguyện vọng và trình độ của học viên. Ví dụ như có hình thức một học viên học với một hoặc nhiều tình nguyện viên. Chúng tôi đáp ứng nhiều nhu cầu khác nhau, từ người lần đầu tiên học tiếng Nhật đến người muốn tham gia kỳ thi năng lực tiếng Nhật. Ngoài ra, chúng tôi đã áp dụng học tập đồng thời nhiều học viên học với nhiều tình

nguyện viên. Việc học này thường có chia sẻ thông tin phòng chống thiên tai, hay giới thiệu văn hoá các nước. Ngoài ra, trong những ngày lễ cuối năm đầu năm mới chúng tôi cũng tổ chức các sự kiện trò chơi của Nhật.

<Cảm nhận qua buổi phỏng vấn>

Tôi cũng đã nói chuyện với các tình nguyện viên khác ngoài ông Nakajima, họ đều rất nhiệt tình, và chăm chỉ giúp đỡ người nước ngoài học tiếng Nhật. Toà nhà của Nhà văn hoá được làm mới và rất sạch đẹp, các lớp học sáng sủa, mọi người ai cũng có bầu không khí thân thiện, cởi mở. Bản thân tôi cũng đã có những giờ phút học tập đầy ý nghĩa.

Tên lớp học: Lớp học tiếng Nhật Shiba Minami
(Xem danh sách số 16, lớp học tiếng Nhật tình nguyện Thành phố Kawaguchi)
Thời gian hoạt động: Thứ 7 hàng tuần từ 11h sáng đến 1 giờ chiều
Địa điểm: Nhà văn hoá Shiba Minami
(14 phút đi bộ từ cửa Đông ga Warabi tuyến Keihin Tohoku JR)
Người liên lạc: 090-6536-4934 (Ông Nakajima)



J리그 입성을 목표로 하는 ‘아벤투라 가와구치’를 응원합니다!

가와구치에 일본 축구의 톱 리그인 J리그를 목표로 노력하고 있는 축구 팀이 있습니다. ‘아벤투라 가와구치’입니다. 팀은 2008년에 창설되어 현재 톱 팀에는 22명의 선수가 재직하고 있고, 아마추어에서 프로 리그 입성을 목표로 하고 있습니다. ‘아벤투라’는 포르투갈어로 ‘모험’을 의미합니다. 수비를 중시하면서도 스스로 돌진하여 볼을 빼앗으러 가는 팀으로서 ‘모험을 하면서 상위(J리그)를 목표로 하자’라는 염원을 담아서 이름을 붙였습니다. 그 팀을 운영하는 NPO법인 페아리 스포츠 클럽의 이사장인 나가오카 오사무 씨에게 이야기를 들었습니다.

—어떤 마음으로 NPO법인을 만들었고, 또 팀을 설립했습니까?

저 자신은 어렸을 때부터 축구를 해왔고, 현립 가와구치 고등학교에 진학해서도 축구부였습니다. 어떤 일도 긍정적으로 끈기있게 하는 것을 축구에서 배웠고, 동료나 지도자에게 도움을 받으며 온 것에 감사하는 마음이 있었는데, 20대에 부상으로 선수 생활을 끝낸 후에도, 내가 할 수 있는 것으로 축구에 공헌하고 싶다고 생각했습니다. 그리고 한다면 열정 있는 사람이 많이 있는 제 2의 고향 가와구치에서 다양한 사람들과 함께 활동해 가자라는 마음으로 법인을 만들고 팀을 설립했습니다.



—팀과 단체 설립 당시의 일을 가르쳐 주십시오.

먼저 팀을 확실하게 만드는 것, 그리고 비전을 정확하게 제시하고 지역의 기업에 지원을 부탁하며 돌았습니다. 지금도 약속 없이 기업을 방문하는 일이 있습니다. 고등학교 시절 축구부의 선배로부터 가와구치를 더욱 발전시키고 싶다는 뜨거운 마음을 갖고 있는 분들을 소개 받은 것도 도움이 되었습니다. 이런 만남과 유대관계가 있는 덕분에 지금 우리들이 있습니다.

—선수 여러분의 평소 생활에 대해서 가르쳐 주십시오.

토요일과 일요일에는 시험이나 이벤트, 평일에는 일을 하고, 연습은 화요일과 금요일 밤, 최근에서야 선수 소속 기업의 협력 덕분에 목요일 오전에도 연습을 할 수 있게 되었습니다. 시험을 낮에 할 때가 많아서 연습도 가능한 한 같은 시간대에 하는 것이 매우 중요합니다.

— ‘팀이 지역과 함께 있는 것’이라는 J리그의 사고방식에 공감을 하고 있는 것 같네요.

축구로 어린이들을 육성하거나 기업과 협동하여 이벤트 등을 하면서 가와구치 시민분들께 팀을 가깝게 느끼게 하여, “지역이 자랑스러워하는 존재”가 되어야 한다고 생각합니다. 이후에는 예를 들면, 선수가 골을 넣을 때마다 가로수를 한 그루 심는 것과 같은 축구와 환경문제를 연결하는 노력도 해보고 싶네요.



지역활동을 통해서 한 사람이라도 많은 분들에게 아벤투라 가와구치를 알리고, 그 성원에 힘입어 축구 팀으로서 강해져서 반드시 J리그에 들어가고 싶습니다.

최근에는 시험에 700~800명의 시민이 응원하러 오신 적도 있다고 합니다. 가와구치에서 J리그 팀이 탄생하는 날을 기대하며 아벤투라 가와구치를 모두 함께 응원합니다!

아벤투라 가와구치 공식 홈페이지 : <https://aventura-kawaguchi.co.jp>



아토리아에서 친숙한 예술에 접해보자!



JR케이힌도호쿠선 가와구치역 동쪽출구에서 도보 8분. 아리오 가와구치 옆에 1층짜리 하얗고 네모난 건물, 가와구치시립 아트 갤러리 ‘아토리아’가 있습니다. 2006년4월에 오픈했습니다. 가와구치에 관련된 작품을 전시하는 기획전이나 지역 학교와 연대한 포스터 콘쿠르 등의 전람회를 열고 있습니다. 그 외에도 전시실·스튜디오를 빌려주고, 아티스트의 개인전 등을 엽니다. 또 아토리아에서는 장기간의 전시뿐만 아니라 하루만 하는 이벤트도 있습니다. 개최되는 이벤트는 워크숍, 즐거운 실기 강좌, 아트 산책, 쉬운 감상 강좌 등입니다.

워크숍은 강사와 함께 작품을 만들거나 신체 표현, 감상을 체험하는 프로그램입니다. 초등학교 저학년 등의 어린 아이도 참가할 수 있는 것이 많이 준비되어 있습니다. 지금까지는 신문지와 종이감 테이프를 조합하여 2m정도의 큰 배를 만드는 기획전이나 비누에 조각해 보는 기획 등, 누구든지 간단하게 즐길 수 있는 내용이 개최되었습니다.

즐거운 실기강좌는 직원이나 작가가 강사가 되어 전문적인 기법을 배우면서 제작을 합니다. 초심자부터 경험자, 중고등학생부터 성인까지, 폭넓은 사람들이 즐길 수 있는 내용으로 된 것이 매력적입니다. 즐거운 실기강좌에는 보다 본격적인 물건 만들기 체험을 할 수 있습니다. 과거에는 가와구치의 전통산업인 대나무 낚시대 만들거나 낚시라고 하는 금속으로 버터 나이프를 만드는 기획 등이 열렸습니다.

아트 산책은 아토리아를 나가서 실외에서 개최되는 프로그램으로, 마을을 걸어나다니며 건물이나 조각을 관찰합니다. 메이지부터 쇼와 초기에 세운 모던 건축을 돌며 ‘가와구치 모던 건축 탐방’등, 조금 다른 시점에서 거리를 바라보는 것으로 평소와 다른 풍경으로 보여지는 것이 흥미진진합니다.



쉬운 감상 강좌는 연구자와 전문가로부터 다양한 주제에 대해서 강의 형식으로 이야기를 듣는 것입니다. 저도 실제로 2022년 9월10일에 개최된 ‘멘홀 감상 강좌’에 참가했습니다. 멘홀 역사는 오래되었고, 일본에 처음으로 설치된 것은 메이지 중기라고 합니다. 그 후 하수도의 확대와 함께 멘홀도 전국으로 확대되어 갔습니다. 최근에는 컬러풀하게 색칠해진 ‘디자인 뚜껑’도 만들어지게 되어, 관광지 등에 설치되고 있습니다. 평소 무심코 보던 멘홀 뚜껑도 역사와 디자인의 차이에 대하여 배우면서 깊은 맛을 느낄 수 있어서 재미있었습니다.

2023년도부터는 시 직영에서 지정관리자제도로 이행되어, 더욱더 시민에게 친숙한 시설을 목표로 운영됩니다.

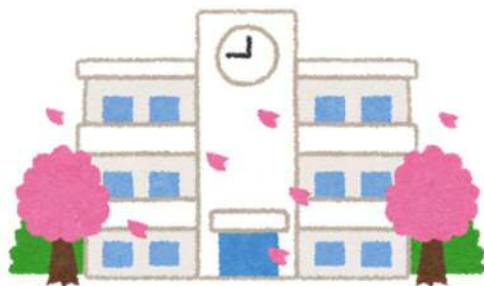
앞으로 개최되는 이벤트는 홍보 가와구치 등에서 확인할 수 있습니다. 지내기 좋은 이 시기에 여러분도 친숙한 예술을 접하러 가보시지 않겠습니까?

가와구치시립 아트 갤러리·아토리아
주소:사이타마현 가와구치시 나미키 모토초 1-76
전화번호:048-253-0222
공식 홈페이지:<https://www.atlia.jp> ※2023년3월까지 운영합니다.



일본 초등학교에 대해서

일본에서는 신학기가 시작되는 4월에 입학식을 합니다. 나라에 따라서는 학교에서의 생활이나 규칙이 다르므로, “곧 우리 아이가 일본 초등학교에 들어가는데 초등학교 생활이 상상이 안 돼”라고 하는 외국인도 많을지도 모릅니다. 그런 분들의 불안을 조금이라도 덜어드리고, 즐겁게 학교생활을 할 수 있도록, 일본 초등학교의 특징과 하루의 흐름에 대해서 소개하겠습니다.



<일본 초등학교의 특징>

일본 초등학교에서는 국어, 사회, 산수, 과학 등의 교과를 배웁니다. 사회과 견학이나 수학여행 등, 학교 밖에서 역사나 문화를 배우거나 다양한 체험을 할 기회도 있습니다. 또한, 급식의 준비나 청소 등, 아이들에게 다양한 역할을 부여함으로써 집단생활의 규칙이나 책임감 등을 몸에 익히게 합니다.

외국 학교에서는 선생님의 일이 교과 지도가 중심입니다만, 일본 초등학교에서는 교과 지도뿐만 아니라 생활 등의 지도를 선생님이 하는 것도 일본 초등학교의 특징입니다.

<초등학교 하루의 흐름 > ※지역이나 학교에 따라 하는 방법이나 시간 등이 다를 수 있습니다.

아침에는 집단 등교로 가까이 살고 있는 어린이들이 그룹을 만들어 같이 등교하는 학교가 많습니다. 등교한 후에는 반마다 아침 조화를 하여 출석 확인을 합니다. 오전 수업은 4교시까지 있고, 1교시 수업시간은 45분입니다.

급식은 교실에서 모두 함께 먹습니다. 당번 어린이가 급식복을 입고 밥이나 반찬을 그릇에 담아 나누어 주고 다 먹으면 모두 함께 정리합니다. 금요일에는 어린이가 급식복을 집으로 가져가 세탁하고, 다음 월요일에 다시 학교에 가지고 갑니다. 급식비는 한 달에 약 4,000엔입니다. 급식 후에는 교실이나 복도, 화장실 등을 어린이들이 청소합니다.



오후 수업시간 수는 학년에 따라 다릅니다. 하루 수업이 끝나면 돌아가는 모임(종례)이 시작됩니다. 선생님으로부터 다음 날의 예정이나 숙제 등의 연락을 듣고, 그 내용을 어린이가 '연락장'에 씁니다. 연락장은 학교와 보호자를 잇는 소중한 것입니다. 보호자가 선생님께 전하고 싶은 것이 있는 경우에도 사용합니다. 연락장 이외, 학교가 소식지를 나누어 주는 일도 있습니다. 일본어 소식지 등 읽는 것이 어려운 경우에는 미리 학교에 연락합니다.

종례가 끝나면 특히 저학년은 학년별로 그룹을 만들어 집에 갑니다. 집단 하교를 실시하고 있는 학교도 있습니다. 보호자가 일하고 있는 등의 이유로 방과 후 아동 클럽에 다니고 있는 어린이는 거기에서 보호자가 테리러 올 때까지 지냅니다.

여러분 조금이라도 일본 초등학교를 이미지화 할 수 있습니까? 일본에서는 '학교 공개' 를 실시하고 있는 초등학교가 많습니다. 학교 공개에서는 누구든지 학교의 수업을 견학할 수 있으므로 초등학교가 어떤 곳인지 알 수 있는 기회입니다. 가와구치시의 학교 공개일은 시의 홈페이지에서 확인할 수 있습니다. 일본 초등학교에 대해서 더 알고 싶은 분은 아래 URL을 참고하여 검색해 보시기 바랍니다.

- 외국인 학생을 위한 취학 가이드북 (문부과학성)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1320860.htm
- 리플릿 '일본 초등학교에 입학하기 전에' (아이치 교육대학)
<https://resource-room.nihongo.aichi-edu.ac.jp/about/leaflet>



제14회 가와구치시 외국인 일본어 스피치 콘테스트

2022년 10월 16일에 가와구치역앞 시민홀 프렌디아에서 '제14회 가와구치시 외국인 일본어 스피치 콘테스트'가 열렸습니다. 이것은 가와구치시에 거주하거나, 근무하거나, 재학하고 있는 일본어를 모어로 하지 않는 외국인이 정해진 주제로 말하는 것으로 일본인과 외국인이 서로를 이해하고, 공생하는 것을 목표로 매년 열리고 있습니다.

이번 주제는 '내가 좋아하는 일본어'. '초심을 잊지 말라', '하늘은 사람 위에 사람을 만들지 않고 사람 밑에 사람을 만들지 않는다', '실패는 성공의 근본' 등, 참가자가 각자의 경험을 섞어가면서 그 말을 좋아하게 된 이유나 그 말에서 배운 것을 이야기했습니다.



엄정한 심사 결과는 다음과 같습니다.

상	이름	출신국	스피치 제목
금상	장 화	중국	초심부터 초심까지
은상	화 이휘	중국	만원짜리 남자의 말
동상	황 휘야오	중국	「배려」의 마음
감투상 (발표순)	치 만	중국	지금을 살다
	귀 랜준	중국	힘내세요
	창 빅 타오 송	베트남	나를 변화시킨 일본 속담
	왕 야시앙	중국	내가 좋아하는 일본말 「십인십색」
	타 테이 타오	베트남	일본어 공부의 추억
	룽 귀웨이	중국	『아깝다』에서 시작하자, 『경천애인』언제까지나

금상을 수상한 장 화 씨는 스피치 ‘초심부터 초심까지’에서 세아미의 유명한 말 ‘초심을 잊지 말라’를 소개했습니다. ‘초심’이란 무엇인가를 장 화 씨의 경험에 비추어 생각한 결과 ‘인생은 죽을 때까지 도전. 도전할 때에는 자신의 미숙함을 결코 잊어서는 안된다는 것을 깨달았다’고 힘있게 발표했습니다. 콘테스트가 끝나고 장 화 씨에게 이야기를 들었습니다.

第14回 川口市外国人による 日本語スピーチコンテスト



— 금상 축하드립니다. 지금 기분이 어떻습니까?
장 기쁘지만 더욱 열심히하고 싶습니다.

— 스피치 콘테스트를 어떻게 준비했습니까?
장 매주 일요일에 사이와이 일본어 광장의 기타하라 선생님과 함께 연습했습니다. 선생님께서 문법이나 발음의 섬세한 차이를 고쳐 주셨고 그것을 바탕으로 집에서 연습했습니다. 실전에서 긴장하지 않도록 사이와이 일본어 광장의 모두 앞에서 발표했습니다.

— ‘초심을 잊지 말라’라는 말은 어떻게 알았습니까?
장 5월에 교토를 여행했을 때에 노 무대를 보았습니다. 거기에서 노에 관심을 갖게 되었고 세아미에 대해서 배우는 과정에서 ‘초심을 잊지 말라’라는 말을 알게 되었습니다.

— 스피치에서 ‘인생은 도전’이라고 힘있게 말했습니다만, 지금 도전하고 있는 것, 노력하고 있는 것이 있습니까?
장 일본 사람과 교류하며 일본 사회를 좀더 이해하려고 노력하고 있습니다. 같은 나라 사람과 교류하는 것도 즐겁습니다만 그것만으로는 일본 사회에서 멀어지고 맙니다. 용기를 내서 적극적으로 일본 사람과 교류하며 일본 사회를 이해하는 것이 일본에서 살아가는데 필요하다고 생각합니다.



— 마지막으로 한 마디 해주시겠습니까?
장 외국에서 온 지 얼마 안 되는 분들께 말씀드리고 싶은 것이 있습니다. 꼭 볼런티어 일본어 교실을 견학해 보시길 바랍니다. 자신과 스케줄이나 공부하는 방법이 맞는 장소를 찾아 거기에서 공부를 계속하는 것이 중요하다고 생각합니다. 일본어 교실에서는 일본 사람과 말 할 수 있습니다. 일본 사람과 이야기 함으로서 상대방의 생각하는 사고방식이나 가치관을 이해하고 시야를 넓힐 수가 있습니다. 먼저 용기를 내서 일본 사람과 교류해 보십시오!

일본 사람과의 교류를 통해서 일본의 문화나 가치관을 적극적으로 배우고 있는 장 화 씨. 앞으로도 가와구치에 오래 살면서 일본 사람과 외국 사람과의 다리 역할을 했으면 좋겠네요!



가와구치시 볼런티어 일본어 교실 소개 ~시바 미나미 일본어 교실~

가와구치시의 인구 약 60만명 중에 약 3만9000명이 외국인입니다. 외국인에 대한 일본어 학습의 장으로서, 작년 7월에 새로운 볼런티어 일본어 교실인 ‘시바 미나미 일본어 교실’이 시작되었습니다. 이번에 대표자인 나카지마 씨의 인터뷰와 함께 그 상황을 전해드리겠습니다.

<외국인에게 배움의 장을>

이제 가와구치시는 외국인이 매우 많은 시가 되었습니다. 시가 외국인을 받아들일 수 있는 환경은 갖추었지만 일본어 학습의 장은 부족합니다. 시내에 있는 일본어 교실의 장소는 각 지역에 점재해 있고 또 어린 아이를 받기 어려운 교실도 있습니다.

요코즈네 지구는 외국인이 가장 많고, 그 다음은 시바 지구로, 이 두 지구에서 전체의 절반 정도를 차지하고 있습니다. 그런데 두 번째로 외국인이 많은 시바 지구에는 일본어 교실이 적은 상황입니다. 그 중에는 시바 지구에서 요코즈네 지구의 교실까지 차로 다니고 있는 학습자도 있는 것 같습니다. 이런 상황을 조금씩 해결하려고 요코즈네 공민관에서 일본어 교실의 대표로서 활동하고 있는 나카지마 씨가 시바 미나미 공민관에서 일본어 교실을 새로 시작한 것입니다.



<지원이 아니라 공생을>

배우러 오는 학습자는 중국인이 대부분으로, 형제나 가족이 함께 오는 사람들이 많고 어린 아이도 동반할 수 있다고 합니다. 외국에서 온 사람 중에는 자신의 모국어를 읽지 못하는 사람이 있지만, 그래도 일본에서는 최소한의 일본어를 할 수 있으면 어떻게든지 생활을 할 수 있습니다. 그런 어른에게도 일본어를

배울 장소를 제공하여, 다소 시간이 걸리더라도 외국인이 본인 스스로 활동할 수 있는 범위를 넓혔으면 좋겠다는 나카지마 씨의 바람이 있었습니다. 다만 그것은 ‘지원한다, 해 준다’ 라는 것이 아닙니다. 학습자도 자원봉사자도 같이 배우고, 실패하면 서로가 성장해가는 관계를 소중히 한다고 합니다.



<일본어 공부 방법: 학습자의 요구와 필요성에 맞춘 대처를 >

시바 미나미 일본어 교실에서는 학습자의 희망이나 일본어 레벨에 맞추어 자세하게 일본어를 가르치고 있습니다. 예를 들면 학습자 한 사람에 대해서 자원봉사자가 한 사람, 또는 여러 명인 형태입니다. 일본어를 처음 배우는 사람으로부터 일본어 능력시험을 보고 싶어 하는 사람 등 다양하게 희망에 응하고 있습니다. 또한, 학습자 다수에 대해서 자원봉사자도 다수라는 일제 학습도 도입하고 있습니다. 이것은 예를 들면 방재정보를 공유하거나 각국의 문화를 소개하기도 합니다. 또, 연말연시에는 일본의 놀이나 게임을 도입한 이벤트를 하기도 합니다.

<취재를 통해서 느낀 점 >

나카지마 씨 이외의 자원봉사자에게도 이야기를 들었습니다만, 자원봉사자들은 외국인의 일본어 학습에 매우 의욕적이며 열심을 다했습니다. 공민관 건물도 새롭고 매우 깨끗하며, 밝은 교실에서 모두 매우 화기애애한 분위기였습니다. 제 자신도 배울 점이 매우 많은 의미 있는 시간이었습니다.

교실 이름 : 시바 미나미 일본어 교실

(가와구치시 불런티어 일본어교실 일람 No.16)

활동 일시 : 매주 토요일 오전11시~오후1시

장소 : 시바 미나미 공민관(JR게이힌도호쿠선 와라비역 동쪽출구에서 도보14분)

연락처 : 090-6536-4934(나카지마 씨)



•編集・発行	川口市 市民生活部 協働推進課 多文化共生係
•編集長	桑矜君
•副編集長	田中雅子
•編集委員	岸田洋二 塩瀬潔泉 嶋澤紗羅
•翻訳者	(英) 安井ルイ (中) 陳晨 桑矜君 姚新華 (越) ファン ヴィエットハー 木村友紀 (韓) 李淑炯
•表紙デザイン	嶋澤紗羅